

をきれいにするえいせいセンター、よいぶたをふやして、農家に分けるちくさんセンターも市役所のたいせつな仕事の一つです。

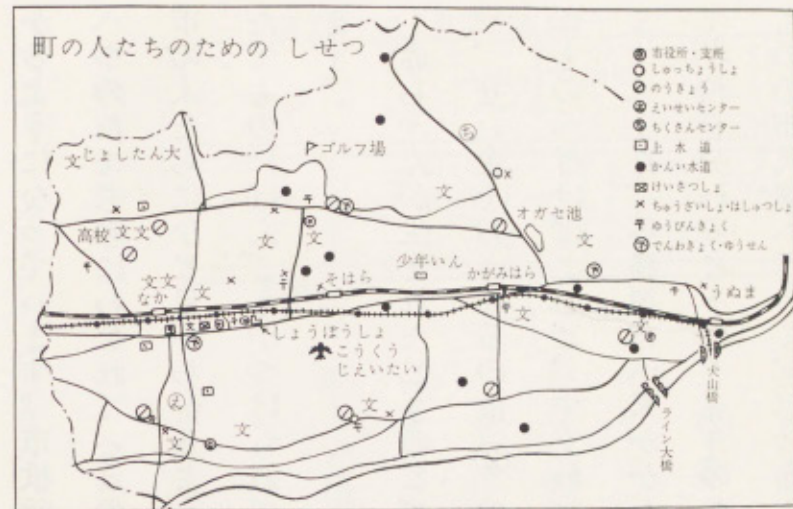
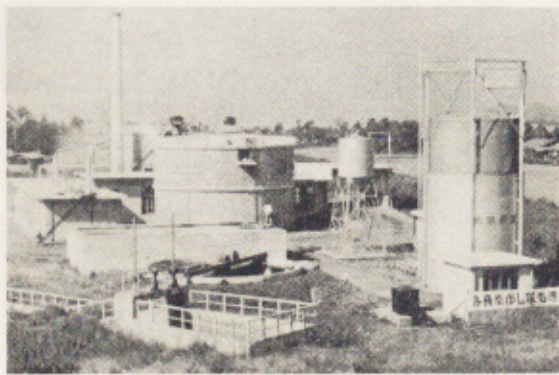


消 防 し ょ

のえいが・こうえん・おどりの会などのために・市の公民館がきめられています。那加第二小・那加第三小・那加中の体育館・稲羽支所・鵜沼第一小の体育館・蘇原支所の六つです。

市の人たちのくらしで、一日でもなくてはこまる水道の水を送ること、町

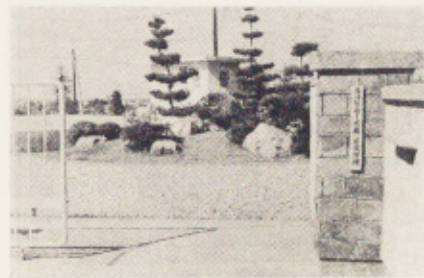
えいせいセンター



どうろくをしてもらって、⑧の教育委員会へ行けば、『入学通知書』がもらえます。市役所まで遠い人たちのためには、稲羽・鵜沼・蘇原の三つの支所と前宮・各務の二つの出張所があります。

蘇原支所の中には、市の図書室がつくられて、多くの本が市のふじん会の人たちで集められました。また、市の人たち

三井水源地



五、町のうつりかわり

(一) 那加の町のうつりかわり

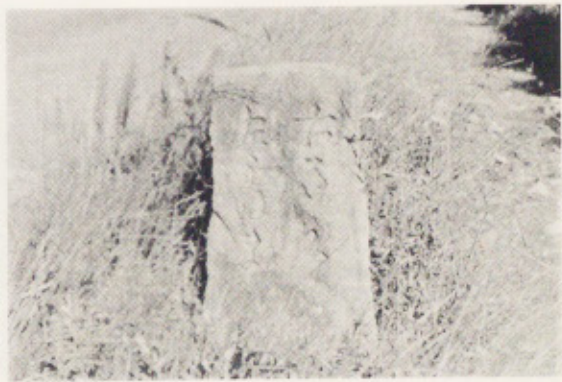
むかしをつた わたしたちは、町をまわって、
えるもの むかしのようすがわかるものを

調べました。

大きな木や、わら屋根の家や、つるべいどなど、

百年も前のものがあちこちにあります。土山から西市場へ行くわかれ道に、六十センチメートルぐらいの石が、立っていて、「右さいみち 左うぬまみち」と字がほってあります。これは道しるべといって、むかし旅人のために作られ

土山にある道しるべ



たのだそうです。さい道というのは、おほかへ行く道といういみで、この道を行くと、西市場のおほかに行きます。

山後の県道ばたには、りっぱな石ひがあります。今から、五十年ほど前、町がいちばん発展したところに、十五年もの間村長として、多くの仕事をされた遠藤儀作翁の苦心を、わすれないようにたてたのだそうです。昭和十年村役場の

前にたてられたのを、高校を広く
するためここに移したのです。

そこから、長塚の手力雄神社へ
行きました。そこには、古いほこ
らや、石むろがあります。大むか
しの古ふんのあとだそうです。



つるべいどがポンプに

	おもなできごと	いまから約
大正のころ	5. ひこう場ができた。	50年前
	5. 長塚で境川のていぼうがきれて大水になった。	＃
	9. 高山線がしかれて那加駅で開通式があった。	45年前
	11. 川崎の工場ができた。	45年前
	12. 高等農林学校（いまの大学）ができた。	45年前
昭和	14. 一・六市ができた。	40年前
	15. 電車が走るようになった。	40年前
	5. 境川放水路ができた。	35年前
	7. 総合運動場ができた。	35年前
	8. 蚕業試験場ができた。（いまの市役所）	30年前
	12. 社たくができた。	30年前

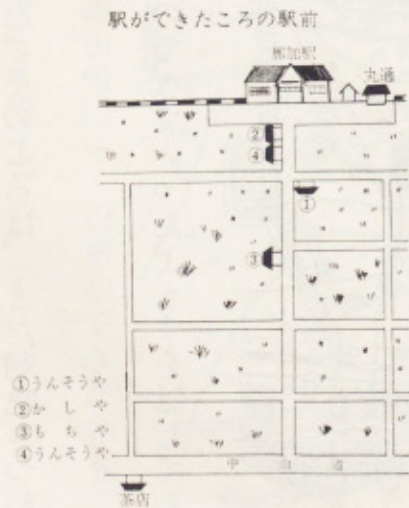
鉄道がしかれたころのできごと

それから、おじいさんたちが、学校へかよった道を歩いて、新加納へ行きました。草のはえた、まがりくねった、ほそい道です。ここにも古いわら屋根の家や、つるべいどがあります。このへんは百年ほど前まで、中山道の宿場として、さかえた所だそうです。

鉄道がしかれて 那加駅前の通りを、わたしたちは今でも「なかえき」とよんでいます。きつと駅ができたから、町ができたのだろうと思って、駅前にいちばん早くできた浅野さんの家で、おばあさんの話を聞きました。

今から五十年ほど前、このへんは手力雄神社の土地で、村が持っていました。松林や草原が多く、開こんした畑が少しあるくらいで、家は一けんもありませんでした。鉄道がしかれることになり、村の人たちが、相談してここを通すことにしました。

鉄道といっしょに駅と道ができました。リヤカーが通るぐらいのせまい道です。駅ができたので、わたしたちは、長塚からひっこしてきて、運送屋をはじめました。そのころは、駅の東に丸通の小さな店があっただけです。うちは、馬車で駅へおりた材木や肥料を近くの村や店へ運んだり、いもを大垣へ運んだり、木曾川から



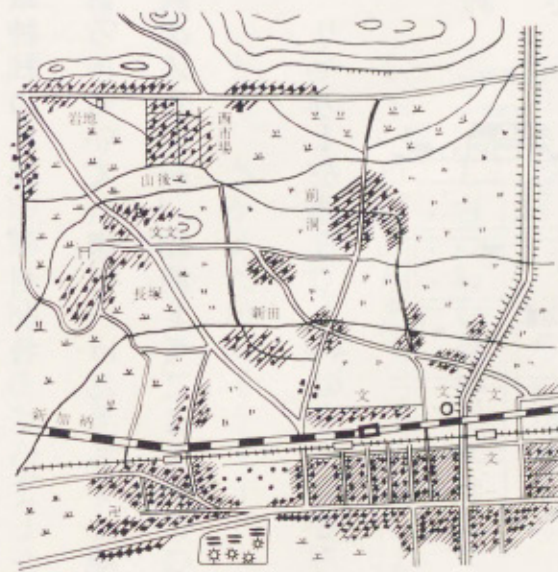
石を運んだりしました。馬が十頭余りいました。そのころは、まだ朝晩きつねがないで通るさびしい所でした。

駅ができて

それから、おじいさんが、町のできていったようすを話してくださいました。

むかしは、新加納がにぎやかだったのですが、駅ができると、人のいききも多くなり、だんだん駅前の方がさかえていきました。駅ができて三十四年の間に、かし屋、もち屋、運送屋、料理屋などができました。そのころ川崎の工場が、蘇原にでき

今の那加



たので、おつとめの人も住むようになりました。

それから、高等農林学校、今の大学ができ、いん食店や、やおや、ごふくや、やどやなどが今の本町、日の出町、元町、門前町と大学の西門の方へ、たっていきました。

50年前の那加



中山道ぞいにも同じように店ができて、にぎやかになっていきました。日の出町に一・六市ができたものころで、店やさんたちが相談して作ったのだそうです。

電車が走るよ
うになって

今から、四十年ほど前、鉄道がしか
れて五年たって、電車も走るように
なりました。おとうさんの子どものころです。そのこ



駅ができて10年たったころの駅前のような様子
左が北、手前の広い通り本町・中央右が一六市

ろは、まだ那加村で、役
場は稲葉高校の前でした。
小学校も第一だけで、駅
前の方からみんな歩いて
かよったのです。

昭和15年ごろの中山道の町なみ



境川放水路ができ、大水の心ばいもなくなり、
そう合運動場や、蚕業しけん場もできて、村はよ
くなっていきました。それからまもなくして、雄

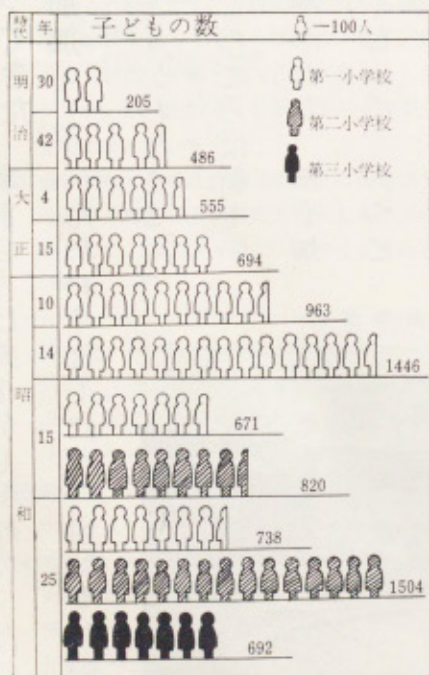
飛が丘に社たくができ、きゆうに人がふえました。学校の子どももふえて、昭
和十五年に第二小学校がわかれしました。同じ年に那加村から那加町になりまし
た。そのころ中山道の店の前には、大きな松なみ木がありました。

戦争が終
わって 太平洋戦争が終わ
ってアメリカのし

んちゆう軍やそのかぞくが、今
の自えい隊に、十年ぐらいいま
した。そのころは町のようすも
外人むきにかわったそうす。

平和になると、店や工場や住宅が、だんだんふえて、子ども数も多くなり、

子ども数のうつりかわり



那加のむかしをつたえるもの

遺跡と古ふん	<p>桐野・長塚・新加納・雄飛ヶ丘遺跡 大むかし（今から2千年も前）この土地に人が住んでいたあとです。そのころの人の使った石器や土器がたくさん発見されています。北洞にはこの土器をやいたかまあとが残っています。</p> <p>柄山こふん 前方後円墳の古ふんで山の上にあります。大むかしのえらい人のおほかで、円とうはにわや鶏頭はにわが発見されています。</p> <p>手力雄神社境内古ふん ここにはいくつかの古ふんがあります。横穴式で石むろがあります。むかしの人がかざりに使った金かん・銀かん・まが玉・くだ玉や土器が出ました。</p> <p>その他 那加には60もの古ふんがあったそうですが今はおおかたこわされてしまいました。</p>
神社	<p>手力雄神社 その初めはわかりませんが大むかし人が住みついたころできたと思われます。5百年ほど前から郷社としてあがめられ、今も町の総鎮守としてたつとばれています。信長がたいへん信こうしたお宮で領地・神輿・剣などをきふしました。弓かけの桜の伝説もあります。額・木狛犬・石狛犬など4百年も前のものとともに神社の宝物となっています。</p> <p>その他の神社 そのほか各部落ごとに氏神さまがありますが、これらは今から3百年以上前にたてられたものが多く、長い間村の人の守り神として、ほう作・雨ごい・やくよけなどをお祈りしてきた神さまです。</p>
寺	<p>少林寺 今から450年ほど前薄田祐貞がたてた臨済宗の禅寺です。信長の兵火にやかれたのを領主坪内氏がたてなおし、代々のぼだい寺としました。いまもたくさんの墓が残っています。親鸞、管公の像や、やり、5百年前の石塔婆が残されています。</p> <p>薬師寺別院 雄飛ヶ丘にあり、6百年も前の薬師如来座像（ぜんぜん薬師）があります。県の重要文化財になっています。</p> <p>その他の寺 その他旧那加には千年も前に開かれたという寺をはじめ古い歴史をもつお寺が10軒もあり、むかしから、宗教によって生活に苦しんでいる村人たちのために心のささえを説き、村の人をすくってきたのです。</p>

新加納のたんぼも金属団地になり、大ぜいの友だちが入ってきました。土山もだんだんこわされていきますが、今に住宅地になると思います。



こわされていく土山

昭和二十五年に第三小学校がわかれました。かわってきた古い那加 町はあまりかわりませんが、でも、このごろは新しい家や工場がたち、田や畑も少なくなつて、おつとめに行く人がふえました。

金属団地事務所



(二) 稲羽の町のうつりかわり

木曾川のう つりかわり 昔の人は、木曾川のこう水で、ずいぶん苦しめられました。今から、四百年くらい前の天正のこう水（一五六八年）は、死者

を数万人も出したうえに、木曾川の川道をかえてしまいました。昔の人々は「ていぼう作り」で、水との戦いだったともいえます。

おじいさんのころもまだ、木曾川のていぼう作りの工事がつづいていたようです。おかげで明治になってから、ずっと稲羽のていぼうは、きれていないということです。水との戦いをしめすものとして、今でもいろいろなものが残っています。



たとえば、江戸時代の「猿尾」という水のいきおいをよわめたり、水の方向をかえたりするていぼうからつき出た石のつつみです。それに、明治時代からの水害予防組合や、上中屋・下中屋のていぼうの上にある水防小屋です。この小屋には、こう水にそなえていろいろな道具がしまっておりあります。

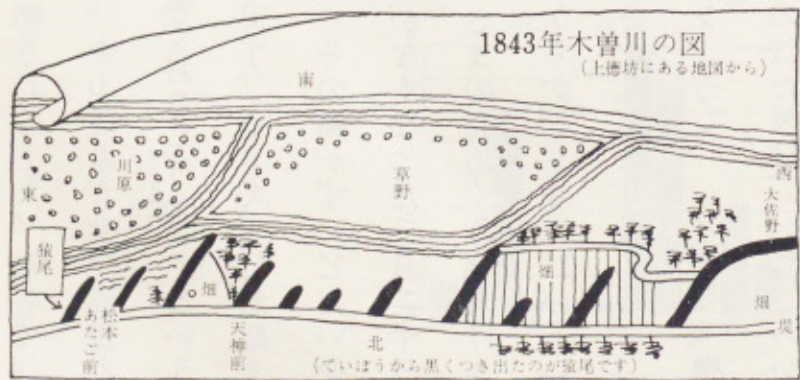
蓮如様 四月二十五日は、わたしたちの町の「蓮

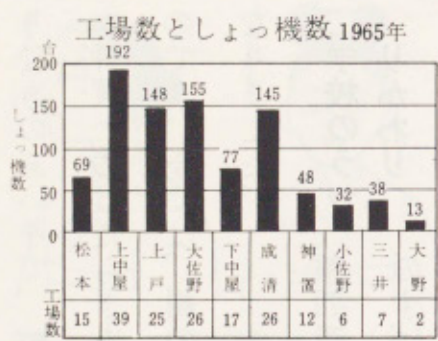
の話 如様まつり」です。学校もお休みになる

ほどのおまつりです。蓮如様とは、どんなことか

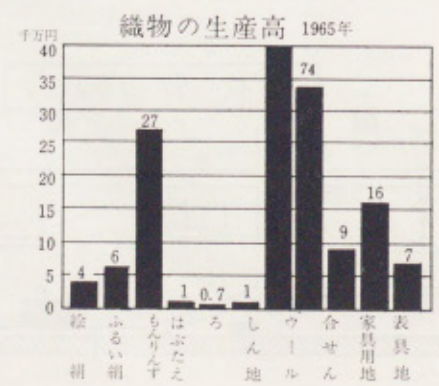
「西入坊」をたずねました。

今から四百六十年ほど前に、蓮如という有名な坊





らさかんになったのでしよう。(中屋おり物組合の話)
 こう水のために、ていぼうの外の土は、しぜんにかいており、江戸時代からくわ畑が多く、「蚕」をかい、その糸で「手おり」がさかんにおこなわれました。川のしつ気で糸がしめり、おりやすいということもありました。それが明治になって、庄屋の家に生まれた「尾関うめ」(上中屋)という人が、京都まで行って新しい機械を持ってきたことが、よりいっそうこの町を発達させたといわれます。おり物の特色は「絹」で、とくに「紋織」がゆうめいです。京都がと



さんがいました。この人は、苦しい勉強をしたえらい坊さんでした。そしていろいろな国をまわって、仏の道をつたえて歩きました。中山道も、少なくとも三回はおうふくしています。そのころ、西入坊の先祖である「行念」という人は、蓮如からとくにしんせつにおしえを受けたそうです。そして、行念は、蓮如が自分で自分をかいた肖像画をいただいたのです。その絵がずっとたいせつにつたえられ、今も残っているのです。それを蓮如がなくなった三月二十五日の一か月おくれ、四月二十五日にかたみとして、仏さまのおめぐみを受けようと多くの人々が西入坊へおまいりに来るのです。いつからか、お寺にはいろいろの店がならぶようになり、そのおまいりがいっそうさかんになりました。

はた屋のう つりかわり
 わたしの町のどこへ行っても、ガシャン、ガシャンとしよつ機の音がしているのに気がつきます。このはた屋は、いつごろか



まるけ
つつんでいました。



ももれ
そのころは、まだか
ばんもなく学用品や
べん当をふろしきに

たのです。女の子は「まるけ」や「もも
れ」に、かみの毛
をゆっていました。
みんな着物を着ています。それに、わら
ぞうりばきで、学校にかよう子が多かつ
たのです。おじいさんの話を聞きました。

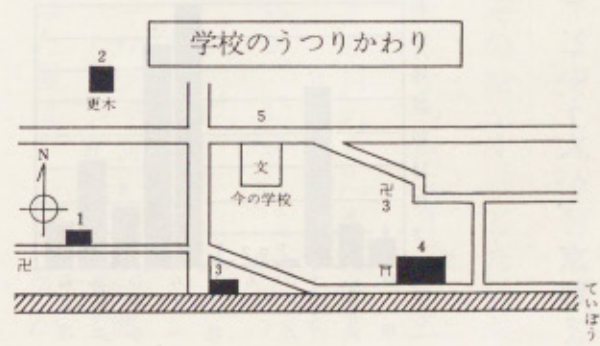
50年ほど前の小学校・そつぎょうしゃしん



学校のうちりかわり

明治6年(93年前)
敬徳義校ができる
人の家をかりて学校に
していた
明治8年
二階建ての校しゃが下中
屋にできる(図の1)
明治36年
更木小学校と分かれる
(図の2)
明治38年
ていぼうのそばの代官や
しきのあとへ学校がうつ
る。教室不足で金竜寺も
かりる(図の3)
大正8年
お宮のとなりへ敬徳小学
校がうつる(図の4)
昭和26年
共和中学が大佐野へうつ
る
昭和38年
敬徳更木小学校が統合し
て、稲羽西小学校と名前
がかわる
昭和41年
今の場所へ鉄きん三階の
新校しゃがかんせいし、
ひっこしをする(図の5)

が、学校のうちりかわりを調べるために、おじいさん
学校のうちりかわり
のすばらしい校しゃで勉強しています
が、学校のうちりかわりを調べるために、おじいさん
学校のうちりかわり
のすばらしい校しゃで勉強しています
が、学校のうちりかわりを調べるために、おじいさん
学校のうちりかわり
のすばらしい校しゃで勉強しています

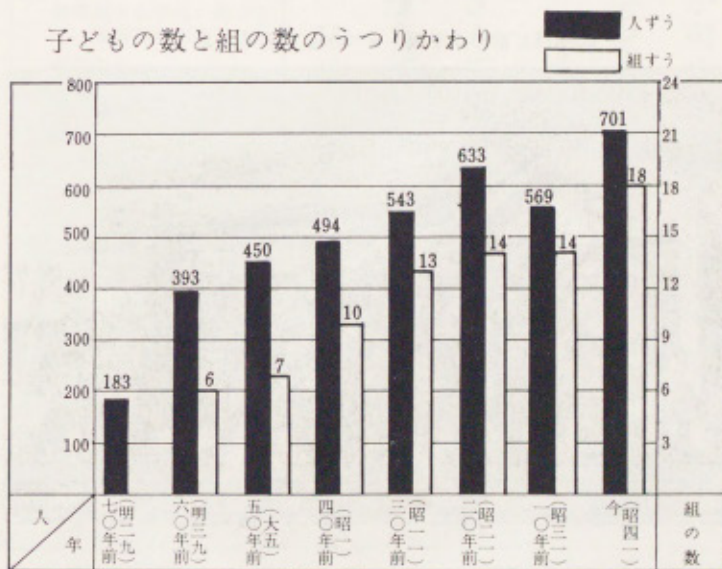


昔の学校のくらし

べん当	遊 び	持 ち 物	学 用 品	服 そ う	あ い	
く 近い子は家へ食べに行 もの 白米にうめぼしやつけ	たがまわし 竹馬 じんとり ござらべ まりつき しょうぎ 百人一首 かるた	ふろしきにつつま 手づくりのかたかけか ばん	木のふで入れ 石板・石筆 ノートはざら紙 そろばん(五玉)	先生 ①洋服 ②着物はかま ③着物はかま 子ども ④着物はかま ⑤着物はかま ⑥着物はかま ⑦着物はかま ⑧着物はかま ⑨着物はかま ⑩着物はかま	か ね	明治(おじいさんのころ)
うめぼし つけもの 遠足はおにぎり 近い子は食べに行く	こままわし たこあげ すごろく 人形の切りぬき	ふろしきにつつま かたかけかばん	ボール紙のふで入れ 絵の具 習字は新聞紙 石板・石筆	①洋服 ②つめえり ③着物はかま ④着物はかま ⑤着物はかま ⑥着物はかま ⑦着物はかま ⑧着物はかま ⑨着物はかま ⑩着物はかま	り ん	大 正(おじさんのころ)
うめぼしべん当が多か った 近い子は食べに行く もちをやいた	かくれんぼ ドッチ 野球 走りっこ 馬とび なわとび	ふろしきにつつま かたかけかばん ランドセル	アルミのふで入れ アルミの下じき 一年生もノート えんぴつなど多い	①洋服 ②着物はかま ③着物はかま ④着物はかま ⑤着物はかま ⑥着物はかま ⑦着物はかま ⑧着物はかま ⑨着物はかま ⑩着物はかま	り ん	昭和(おとうさんのころ)
麦ごはん さつまいも いものつる かきの皮 のこな 種をいっただもの	戦争ごっこ じゅんさごっこ にくだん ばんこ かちんだま	持ち物には全部名前を かいた	戦争でものがない 空しゅうで勉強ができ ない	①国民服 ②もんべ ③国民服 ④もんべ ⑤国民服 ⑥もんべ ⑦国民服 ⑧もんべ ⑨国民服 ⑩もんべ	サ イ レ ン	昭和(おねえさんのころ)

一年生は、「石筆」で「石板」に書いたり消したりして、一年間使ったそう
す。まだ運動場がなかったたので、体育
はなく、女の先生もいなかったそう
す。おとうさんのころの女の先生は、
まだ着物にはかまでしたが、四十年ほ
ど前から洋服を着るようになりました。
おねえさんのころは、戦争中で、じ
ゆうぶん勉強もできず、学用品や食べ
物も手に入りませんでした。

子どもの数と組の数のうつりかわり



(三) 鶉沼の町のうつりかわり

おもなできごと		いまから
	古ふんがつくられた	やく 2000 年前
	須衛村で須恵器が作られた	1000~1500
む	神社(村国・真墨田)がたてられた	1200
	東山道(内野・古市場から尾張へ)を通った	700
か	寺 {大安寺} がたてられた	570
	{空安寺}	480
し	城がきずかれた	400
	中山道・宿場がきめられた	300
	草なぎたいが各務野をかいこんした	150

むかしのおもなできごと

(1) 町のむかし

むかしのようす わたしたちの町は、
をつたえるもの むかし中山道の、

しゆく場だったそうです。そのころの
ようすが、わかるものを、見学しまし
た。

通りには、ひくい二かいだての家が
なんげんもあります。あまり古い家



むかしの本陣のあと

は見あたりません。しかし、大安寺橋の西に長
い土べいにかこまれて、かわらに花の絵のつい
た家があります。ここがむかしの本陣のあとで
す。

大安寺川にそって二十分ほどのぼると、大安
寺という古くて大きなお寺があります。その前
に池があります。その池を新池といいます。そ
ばにたててあるきねんひに、書いてある話を先

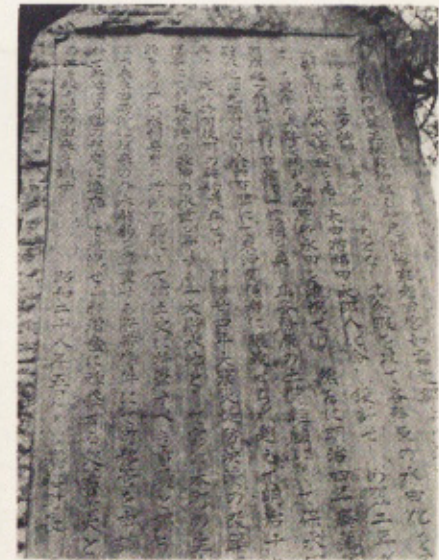
生にききました。

むかし、各務野は見わたすかぎりの草原でした。そこを田にして米作りをし
ようと、尾張藩の田宮如雲という人が考え、新池を作り、前からあった多くの

池と水ろでむすび、各務野へ水を引きました。池に近いうちは水が流れましたが、遠くなるにつれて水はすいこまれ、各務野まで流れず、しつばいに終りました。今では、鵜沼・各務の田に使う、たいせつな用水池（新池）になっていきます。その人々のくろうをわすれないように、内野にもきねんひがたっています。

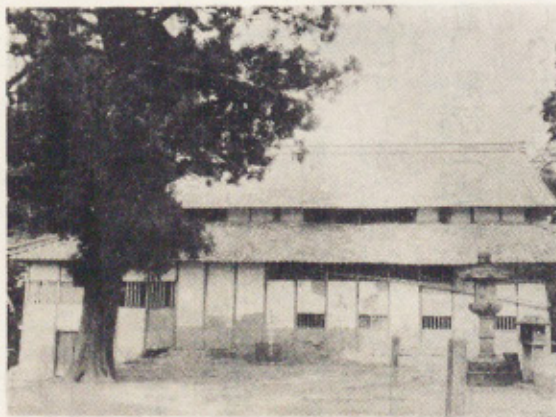
各務に「村国座」という、しばい小屋があつたこともききました。今から百年ほど前、各務の庄屋、長繩八左衛門は、村にぶたいをつくる計画をたて、ゆるしをうけに江戸へいき、かえるとちゆうで死なれた。その後十六

新池 きねんひ



年もたつた、明治十五年に大きなまわりぶたいと、花道のあるりつばなしばい小屋ができあがつた。おいわいに十三日間しばいをつづけました。それからは、村の人々がほう年をいわうため、一か月も前からしばいのれんしゆうをしたり、よそから役者をよんだりして、たのしみました。だから秋まつりが、一そうにぎやかになったということです。しかし、そのためにたくさんのお金がいります。家々のきふはもちろん、しんせきにも出してもらいました。「各務から、およめにもらうと、はな（役者に出すお金）を、きるのがえらい」と、いわれたこともありま

村 国 座



昭和	大正	明 治	年号
一八	一五	四二	年
二二	一四	四〇	おもなできごと
九	一三	三〇	い
二	一二	二四	ま
九	一〇	一五	か
三三	〇九	〇八	ら
二九	〇八	〇七	前
三三	〇七	〇六	年
二二	〇六	〇五	号
一八	〇五	〇四	
	〇四	〇三	
	〇三	〇二	
	〇二	〇一	
	〇一	〇〇	

鉄道がしかれたところのおもなできごと

(2) 鉄道がしかれて

鉄道がしかれたところ
おじいさんが、子どものころ各務野

は、一めんの草原と林で、大砲をうつれんしゅう場でしたが、五十年ほど前、飛行二連隊になりました。少しでも、べんりなようにと、高山線がしかれました。一けんの家もない、よくきつねの出る、草原に、各務原駅がぼつんとできまし

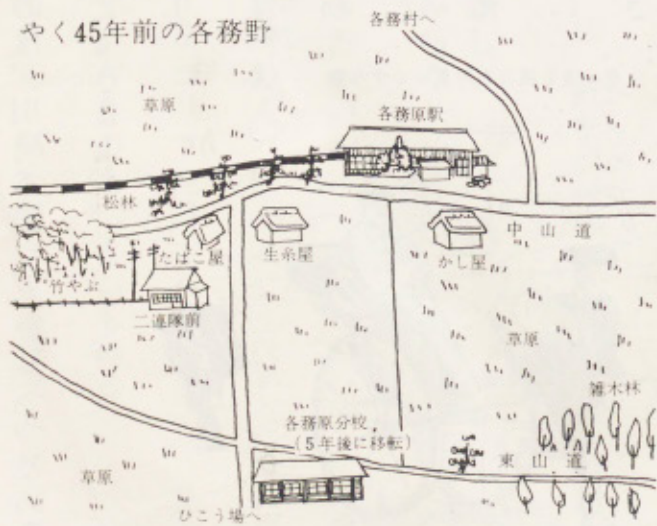
た。そして汽車が通るようになった日、近くのぶらくからみこしを出したり、ごちそうを作ったりして、大へんにぎやかにおいわいました。

電車が通る
各務原駅ができると、
ようになつて 駅前にはげん、家がた

ちました。そのうち、各務原線がしかれ、
二連隊前(今の名電各務原駅)ができ、
電車も通るようになりました。

乗りものがべんりになると、駅の近くに川崎工場へかよう人や、各務村の人たちの家が、やく百五十戸たちました。三ツ池分校も、各務原にたてなおされてお

やく45年前の各務野



昭和	おもなできごと
20年	戦争がおわった
21年	朝日区というぶちくができた
24年	三ツ池分校が鶴沼第二小学校とかわった
30年	鶴沼町へ各務村が合併した
31年	都築ぼうせき工場ができた(宝積寺)
33年	日本毛織鶴沼工場ができた(各務原)
36年	スプリング工場ができた(内野)
38年	ハニー織機工場ができた(各務)
38年	合併して各務原市となった
41年	各務原牛乳工場が移転した(各務原)

戦後のおもなできごと

新しい ぶらく ひろびろとしたびこう場が
 いらなくなりました。ここに
 いたへいたいさんたち(おもに沖繩
 ・台湾の人)六七人がへいしゃにのこ
 り、スコップだけでかいこんし、見わ
 たすかぎりのさつまいも畑をつくりま
 した。そしてかぞくをよび、かがやき

(3) 戦争がおわって

りました。べんりになった南町のあたりには、犬山や名古屋の工場や会社へつとめる人の家が多かったです、店もできました。

り、だいぶにぎやかな町になりました。その後、川崎工場や、会社へつとめる人が多くなるにつれて、人口も家の数もふえてきました。
 一方、宿場しゆくでにぎわった東鶴沼は、まがりくねった道の両がわに、一メートルもあるような草やささ竹がしげって、ひるまでもこわいようなところでした。が、中山道は、たび人(富山のおきぐすり屋)や、人力車が時々通りました。村には店がないので、買い物には、わたし船で木曾川をわたり、犬山へ行き、ました。四十年ほど前、犬山橋がかけられ、電車が通るようになると、わたし船はなくな

中山道を通る人力車・くすり屋



ながらのぼる朝日のように、ぶらくがはってんすることをねがって朝日区あさひくとしました。昭和四一年には戸数一一三戸、人口五一七人にふえ、さつまいものほか、すいか・メロン・人じんなど、いろいろなやさいや、くだものが作られるようになりました。またつとめの人（主に自えいたい員）が多くなりました。

かわつてき
た 鵜沼

各務原駅の近所は、B二九のぼく
げきでやけ野原となったところで
すが、今では大きな工場・店・家が多きたちなら
びました。国道二一号线こくどうごう（むかしの中山道）は、
自動車・トラックがひっきりなしに走り、バスも
通るようになりました。今ではむかしの各務野の

昭和30年ごろの各務原駅附近



ようすはみることができせん。

各務村かかみや東鵜沼ひがしうのは、おもに農家でうちじゅうの
人が、田や畑の仕事をしています。けれども工
場やじゅうたくがたつて、田や畑が少なくなり、



各務原市縫製工場

それに耕運機こううんきなどの
きかいを、使うよう
になったので、むか
しほど人手がいらな
くなりました。そこで農家の人たちの多くはつと
めに出て、女や年よりだけで仕事をする家が多
くなりました。

各務原駅前通り（41年）



(四) 蘇原の町のうつりかわり—おじいさんからきいた話

むかしのようす
をつたえるもの

いまからやく一二〇〇年ほど前、陶器をやいたというかま
あどが、飛鳥の山の中にあります。飛鳥田神社のすぐ北の

ゴルフ場の松林の中にあります。蘇
原、各務の山の中ではずいぶん陶器
をやくしよく人がいたらしいのです。
やいた陶器は南の村の方へ持って来
て食べ物とかえました。それが、の
ちに市になったといわれ、古市場の
名前ができたもどだ、といわれます。

か ま あ ど



宮 塚

それから、今から二〇〇年ぐらい前、農業もだんだん進んで新しい田がかい
こんされました。三滝新田(六軒)、吉兵衛新田(吉新)のひらかれたのも、
このころのことで、またサツマイモをつくることがつたわったのも、このころ
のことで、土地によくあってたくさんつくられる
ようになり、のちには町のとくさんぶつになつた
と、いわれます。

つぎに、おじいさんは宮塚の話と、蘇原の町に
なるまでのことを話してくださいました。

大島町の北の田の中にある塚の話でした。今か
ら約一三〇〇年前のことです。蘓我倉山田石川磨
という人が県主として、蘇原に来て住み、一〇年

蘇原のうつりかわり

時代	できごと	今からやく
やまと時代	石川磨 あがためしとしてくる 山田寺 飛鳥田神社たつ	1300年前
な時代	北山のふもとで とうきを やく	1200年前
へいあん時代	伊吹村、飛鳥村でできる 古市場村でできる	1000年前 800年前
かまくら時代		
むろまち時代	そはらごうといった	600年前
あもも時代	信長軍せめ入り、山田寺もえる	400年前
えど時代	15の里であった 三滝新田、柿沢、野村、伊吹、飛鳥、島崎、持田、古市場、熊田、大島、宮代、東島、坂井、野口、吉兵衛新田	150年前
めいじ時代	6つの村になった…明治8年 ・三柿野村 三滝新田、野村、柿沢がいっしょになる ・いび島村 伊吹、飛鳥、島崎、吉兵衛新田がいっしょになる ・和合村 熊田、東島、坂井、野口がいっしょになる ・大宮村 大島、宮代がいっしょになる ・古市場村 ・持田村	90年前
昭和時代	蘇原村ができる…明治30年 6つの村がいっしょになる	70年前
昭和時代	蘇原町となる…昭和18年	23年前

(蘇原が蘇原とかわったのは昭和38年です)

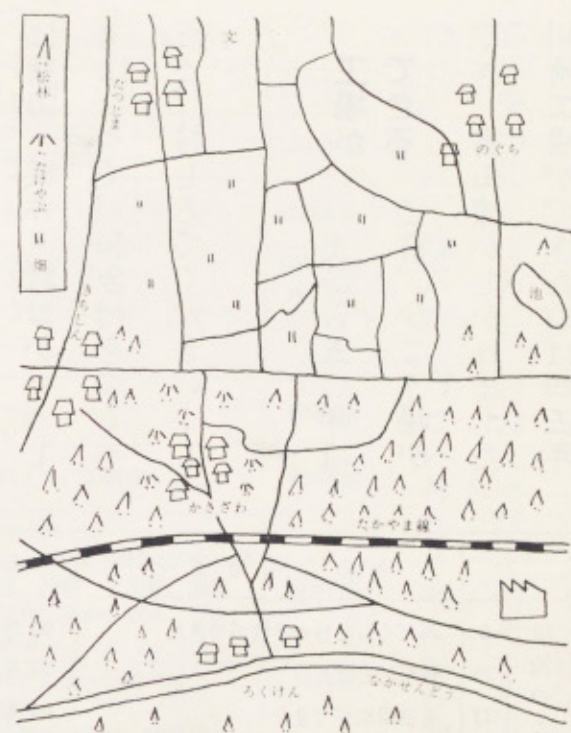
ほどでまた大和(奈良)に帰り、大化改新にてがらをたて右大臣となりました。石川磨の死んだあと、村の人々はその死をおしんでいこつをもらいうけ、もとのやしきに、ほおむったといわれ、それが今の宮塚だど、いわれていきます。

わたしのおとうさんが、ときどき、「わごう」ということばをつかうことがあります。「わごう」についておじいさんは明治八年、今から九〇年前、六つ

の村ができたとき、今の東島は熊田・坂井・野口がいっしょになって、和合村をつくつたど、おしえてくださいました。工場ができるいまから五〇年ほど前、ひこう場ができ、高山線がしかれました。川崎工場ができたのは四五年

	おもなできごと	今からやく
明治のころ	6 わたくしたちの学校ができた	90年前
	30 蘇原村となる	70年前
	32 各務用水ができた	65年前
	11 蘇原ゆう便局ひらく	60年前
大正のころ	6 ひこう場ができた	50年前
	7 高山線が各務原駅までできた	45年前
	10 川崎工場(ひこうき)ができた	45年前
	15 各務原線ができた	40年前
昭和のころ	7 古市場までバスが通る	35年前
	17 旭しやたくができた	25年前
	17 蘇原えきができた	25年前
	18 蘇原町となった	
	21 古市場と六軒に通る道ができた	
	38 各務原市たんじょう	

(41.8.)



今から45年ぐらいむかしの蘇原

まがった道で、中山道まで出るにはとてもこわかったそうです。六軒は中山道のりょうがわに家が二十けんほどあって、まわりは松林でありました。高山線は松林を切りひらいて、できたのですが、そのころ蘇原駅はなかったのです。

ほど前のことです。ひこうきをつくる工場であったそうです。そのころの町のようすを地図にかいて話をしてくださいました。今にぎやかな旭町はありません。松林や、竹やぶがあつて、ひるでもうす暗く、せまい

駅ができたのは今から二十五年ぐらい前のことです。

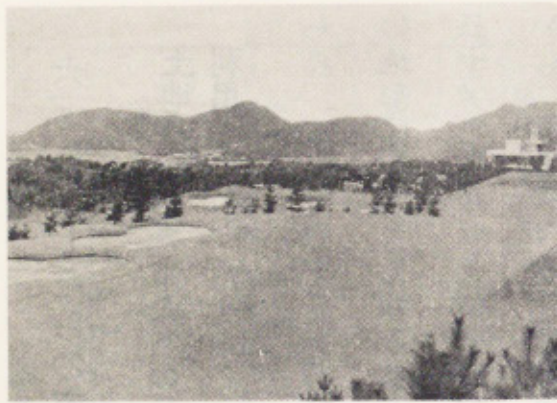
そのころ、せんそうでひこうきをつくる仕事がいそがしくなり、はたらく人の家をつくりました。それが、今の旭町だと、いうことがわかりました。

同じころ、高山線に蘇原駅ができ、駅前ふきんも、ひこうき工場のある三柿野も、中山道にそつた六軒も、南の方の町のようにすは急にかわってきました。

そして昭和十八年蘆原村は蘆原町となったのです。しかし、その頃町には工場といつても、川崎のひこうきをつくる工場と、郡上紡績があつたぐらいです。ほかの工場はほとんど、今から十年ぐらい前

蘇原駅ができたきねんび





ゴルフ場

毎日、多くの車が持田の方へ走って行きます。一日に一三〇—一五〇人の人がゴルフに来るそうです。愛知県と、岐阜県の人と同じくらい来ます。ここでは二〇〇人も人がはたらいています。そのうち、町のおかあさんが、キャディとして、毎日一二〇人もはたらいていると、きいてびっくりしました。

の松林が切りひらかれゴルフ場ができました。みどりのしだが、とても美しい。一しゅうして来るのに四時間もかかる、じつに広いめんせきです。ここからは蘇原の町、那加の町、とおく木曾川をこえて愛知県まで見ることがができます。

からたちはじめたということです。今では工場がふえて、はたらく人のかずもしだいに多くなり、新しい家が畑の中につきつきたてられています。南の方は道がまっすぐにとおっています。おじいさんは「今から二十五年ぐらい前、まがった道をまっすぐな道にしたんだよ。学校の西の広い道ができたのは二十年ぐらい前で、昭和二十一年だったかな。」と、おっしゃいました。

わたしたちは川崎山の中腹に南の方の土地をせいりしたきねんひをみつめました。

ゴルフ場 今から八年前、昭和三十三年、北山のふもと

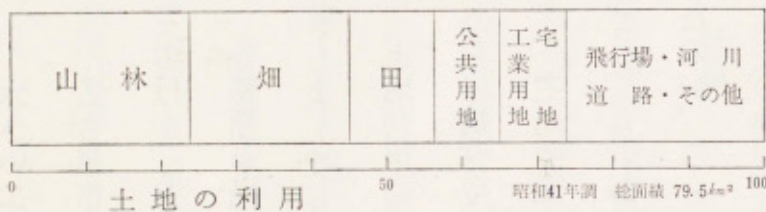
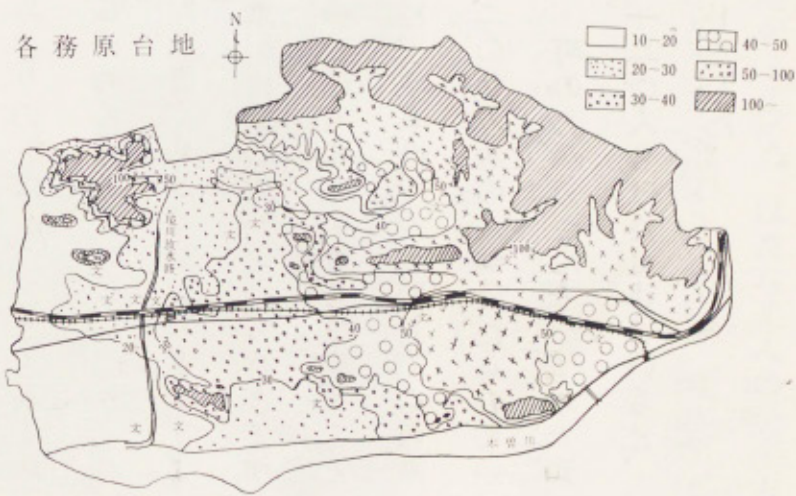
土地区かくせいきねんひ



六、わたしたちの市とほかの土地

土地の利用

わたしたちの住んでいる各務原市は、むかし、「かかみの」とも言われ、広い野原でした。野原といっても、下の地形図が示しているように、大部分が海拔三十メートル以上の土地です。こんなところから「各務原台地」とも呼ばれています。台地であることは、市を東西に走っている電車に乗っていてもわかります。東の方では、「羽場」を過ぎて「鶉沼宿」に向かうとき、急な



坂をおりていきます。西の方では、「新加納」を過ぎると急に電車は、田んぼの中を走るようになります。各務原台地に住みついた人たちは、むかしから、農業をよくしようと、いろいろ考え、努力してきました。各務原用水や境川放水路などを作ったのも、その一例です。台地を中心とした畑作、低い土地を中心とした稲作などが、そのねがいでした。しかし、時代が移り変わり、各務原市にもなるにしたがって人々のねがいや、土地の利用も変わってきました。農地や山林が少なくなつて、工業用地や宅地がふえてきました。今まで、農業中心であったのが、工業中心へと変わりつつあるのです。

○ 農業だけでは、生活していけなくなったこと。

○ 大きい工場が、どんどんできるようになったこと。

○ 名古屋市や岐阜市の近くであること。

そのほか、いろいろな理由があると思われます。

各務原台地は、新しい都市計画のもとに、ますます発展しようとしています。

土地利用の移り変わりについて、那加第二小学校の子たちは調べてみました。表にしてみると、田や畑が減って、宅地や工業用地が増えていくことがわかりました。どれくらいの広さか、自分たちの学校の広さと比べてみると、○×グラフです。二年間に、学校の十五ばいの広さの畑がなくなったことに、おどろきました。

田畑宅地工業用地の変化

	39年	41年	増	減
田	1002ha	996ha	×	×
畑	1756ha	1712ha	×	×
宅地			○	○
工業用地	579ha	643ha	○	○

(注) 39年と41年を比べ那加第二小学校の広さ(3.3ha)をもとにした ○増 ×減

市の人たちの

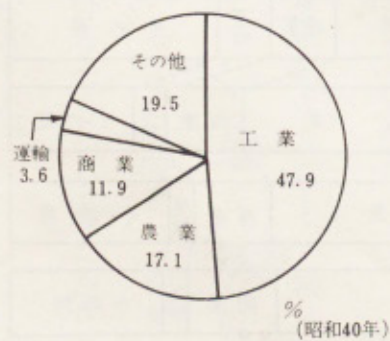
仕事

各務原市に住んでいる人たちの仕事を調べてみました。働いている人たちについて、どんな仕事をしているのかを調べたのです。グラフに書いてみて、おどろいたことは「工業」が全体のやく半分以上、つづいて「農業」「商業」という順になっていることでした。

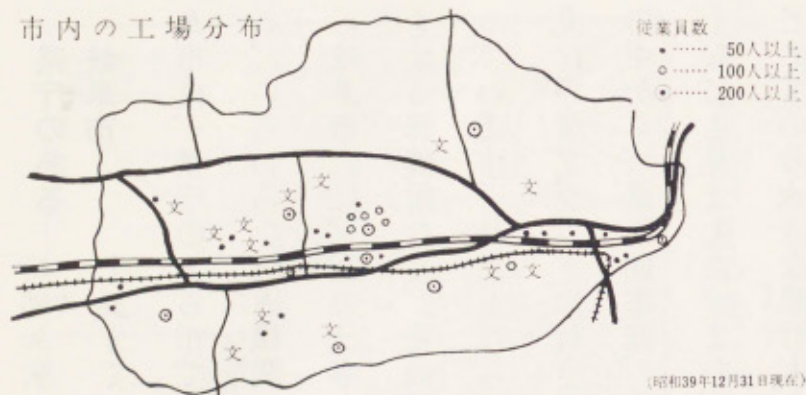
「各務原市は、工業都市として発展しつつある、力強い市です。」と、いつか、先生が話してくださいったことを思い出しました。

各務原市は、「各務原台地」と呼ばれ、農業を中心として発展してきたはずでした。しかし、農業を仕事とする人が少ないのは、なぜだろうか。みんなで話し合いました。

市の人たちの仕事



市内の工場分布



(昭和39年12月31日現在)

工業を仕事としている人たちは、市内の工場へ働きに出かけていきます。市内には、五十人以上で働いている大ききの工場が、三九もあります。少ない人数で仕事をしているところも合わせると六七八にもなります。そのほか、岐阜市や名古屋市の工場へも働きに出かけていきます。

しかし、少なくなつた農業の人たちも、機械を使って仕事をするようになったこと。いいものを作たくさん作る研究けんきゆうをしていること。また、副業ふくぎょうとして、ぶたをかったり、作るやさいを考えたりしていることなども話し合いました。

まず、五年ごとに行なわれる国勢調査こくせいちょうさをもとに市の人たちの、仕事の移りかわりを調べてみました。グラフに書いてみると、農業がだんだんへつてきて、その分だけ工業がふえてきていることがわかります。

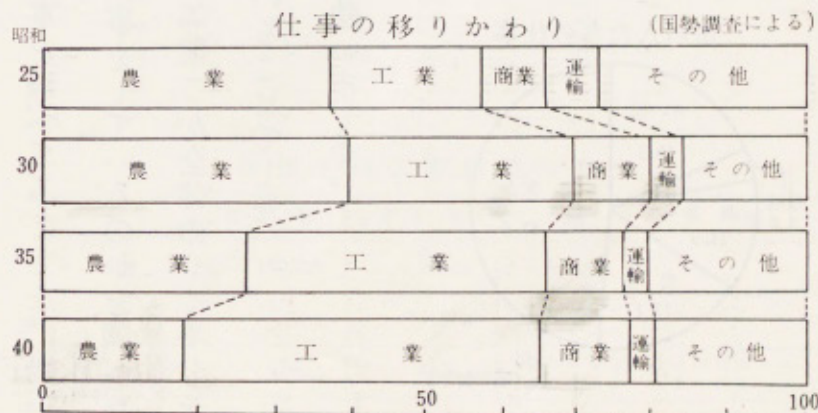
「機械きかいで仕事をするようになったからだ。」

「お金がもうからないからだ。」

「新しい工場ができてきたからだ。」

「岐阜市や名古屋市の近くだから。」

みんなは、農業が少なくなつて工業がふえてきたことについて意見を出し合いました。



県庁のある
岐阜市

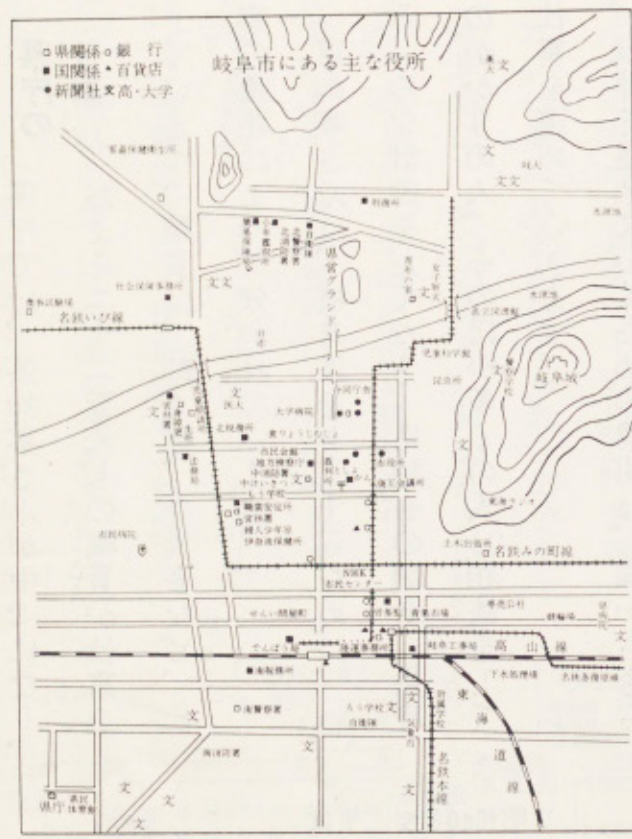
新那加駅から電車に乗り、およそ十五分で新岐阜駅に着きます。岐阜市は、県庁のある市です。国鉄東海道線をはじめ、いろいろな交通機関が通っています。

岐阜市には、国の仕事をする裁判所、県の仕事をする保健所など、そのほか、多くの役所が集まっています。わたしたちは、第二十回岐阜国体を見に県営グラウンドに行きました。そのとき、バスの中から、県立図書館、大学病院、大きなデパートなども見ました。また、にいさんのかよっている高等学校、おとうさんのつとめている大きな銀行もありました。

県庁は、明治七年（およそ九〇年前）に、羽島郡笠松町から岐阜市司町に移されました。その後、大正十三年に現在の司町合同庁舎が、県庁舎として建てられました。司町付近には、役所、新聞社、放送局などが集まっています。しかし、昭和四十年に、新しい県庁舎が岐阜市藪田に建てられ、県庁は移りました。



岐阜市藪田にある岐阜県庁舎



岐阜市に集まっている主なもの

県庁は、明治七年（およそ九〇年前）に、羽島郡笠松町から岐阜市司町に移されました。その後、大正十三年に現在の司町合同庁舎が、県庁舎として建てられました。司町付近には、役所、新聞社、放送局などが集まっています。しかし、昭和四十年に、新しい県庁舎が岐阜市藪田に建てられ、県庁は移りました。

県庁の 県庁では、県知事さんが中心になり、
仕事 およそ二千二百人もの職員が仕事を

しています。職員は、部、課、委員会など、仕事の種類によって分かれています。

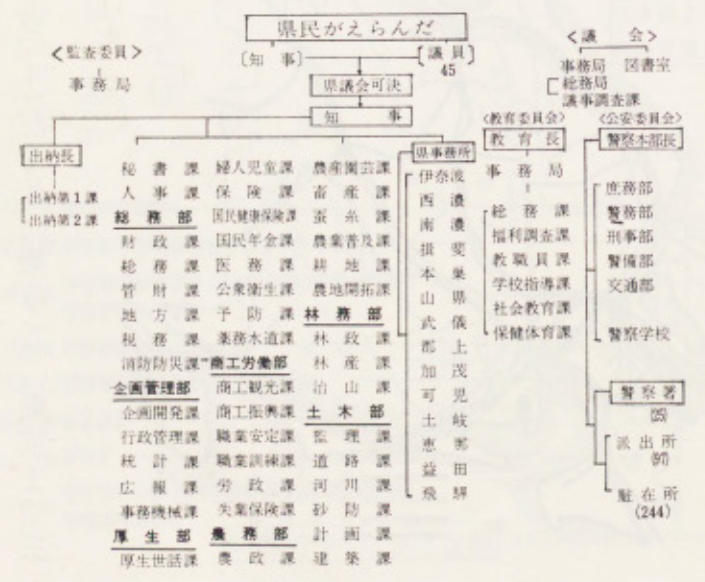
県知事さんは、岐阜県をよくするために、いろいろな計画をたてたり、県議会の議員、県庁のかかりの人、そのほか多くの人と相談をして仕事を進めていきます。

仕事を進めていくための費用は、国からもらうお金（国庫支出金・地方交付税）と、県が集めるお金（県税・その他）とでまかなわれています。

ます。そして、学校をよくしたり、先生たちに支はらうお金。道路や川などをよくしていくお金。田畑や山林などをよくするためのお金。そのほか、計画された仕事にお金が分けられるのです。

岐阜県は、五つの地方に分かれています。そして、十四の県事務所が作られています。そして、十四の県事務所が作られています。そして、十四の県事務所が作られています。私たちの各務原市は、伊奈波県事務所といつも連絡し合って仕事を進めていきます。

県庁のしくみ



昭和40年度 予算 (岐阜県)					
歳入					
国庫支出金	県 税	地方交付税	使用料・手数料	地方譲与税	その他
30.6	26.4	22.7	4.0	3.5	13.0
(%)					
歳出					
教育費	土木費	農 林 水産業費	総務費	警察費	公債費
33.2	18.4	14.6	8.4	5.2	4.7
その他 15.5					
(総額 386,300万円) (%)					

遠い地方との
むすびつき

新幹線「岐阜羽島駅」から、こだま号に乗ると、東京まで三時間三十分、大阪まで一時間三十分で行けます。

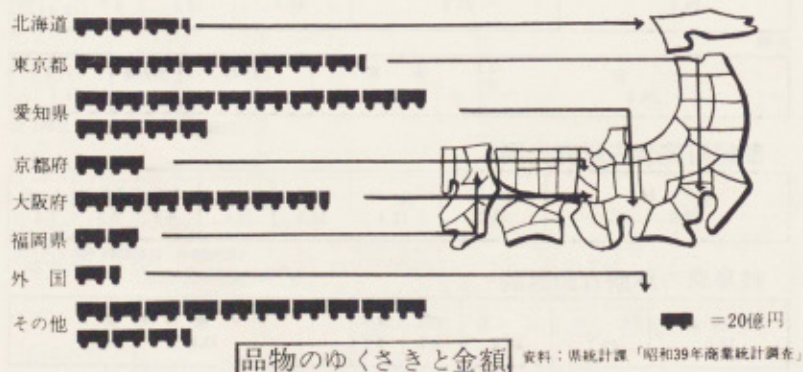
岐阜県は、東海、北陸、近畿の境に

位置をしめているため、いろいろな交通路が集まっています。現在、東海北陸自動車道、中央自動車道も計画されています。また、岐阜県の南濃地方を通る「日本横断運河」という、日本海と太平洋を結ぶ運河が計画され、調査も進められようとしています。ますます



す交通が発達して、人の行ききや品物の輸送が便利になると思われます。

きよし君は、三年生のとき各務原市から送り出す品物、よその土地から送られてくる品物について調べました。こんどは、岐阜貨物駅で調べてみると、セメント、木材、肥料、くだもの、石油などが送られてくるおもなものでした。国鉄岐阜駅前にある既製服問屋街では、全国各地から買いに来ることを聞きました。岐阜県で作られた品物が、送られて行くところとお金を表にしてみると下のようです。遠く外国へも輸出されていることがわかります。



まず、縄文時代には、各務原市に人が住んでいたでしょう。地形から考えてみますと、住みやすかったように思われます。そのしょうこに、市内のあちこちから、そのころの土器の破片が発見されています。

ここで、たいせつなことは、縄文土器が台地から出ている

かり・りようで 大むかしの人たちは、どんなくらしをし生活したところ ていたでしょうが。

七 大むかしのくらし

(一) 縄文・弥生時代のころ

よび名	何年くらい前か	生活
縄文時代	約 2200年~1800年前	小動物や魚、貝、木のみなどを食べる。すむ所は山や台地でその上、水のあるところ。道具は石や骨や土でつくる。
弥生時代	約 1800年~2200年前	いねをつくることをおぼえる。平地にすむようになる。村ができる。道具も縄文時代より進歩する。

市内のおもな工場

(人数 A 200人以上 B 100人以上 C 40人以上 D 50人以下)

No.	人数	地区	工場名	しごと	No.	人数	地区	工場名	しごと
1	A	森原	川崎航空機	バス・航空機	21	C	新加	綿屋工業	動力伝導装置部品
2	〃	〃	天龍工業	乗物座席	22	〃	新加	小林商店	枕木製造
3	〃	新加	日本毛織	合繊維・紡績糸	23	〃	〃	養川	酒類製造
4	〃	〃	部業紡績	スワ糸・純ビスコース	24	D	森原	千田	男子既製服
5	〃	森原	日新プラスチック	合成繊維・リノプロフト	25	〃	新加	若山建設	建築・製材
6	〃	新加	興業プラスチック工業	プラスチック製品	26	〃	森原	丸佐織布	合成繊維
7	〃	新加	ハニー繊維工業	紳士・婦人スラックス	27	〃	新加	松原鑄造所	機械部品鑄造
8	〃	森原	部上紡績	毛織物合成繊維	28	〃	〃	都鉄工	航空機・紡績部品
9	B	〃	東海重工	バスボデー	29	〃	新加	丸長精機	自動車部品
10	〃	新加	東海スプリング	スプリング	30	〃	新加	美尾整理	毛織物整理
11	〃	森原	大和製作所	バス部品	31	〃	新加	豊紡績所	結毛・反毛・漂染加工
12	〃	〃	高井鉄工	バス・トラックボデー	32	〃	〃	建部重工	鉄骨・ブレースシュー製造
13	〃	〃	榎本鉄工所	自動車部品	33	〃	〃	岐阜マッダ	自動車修理販売
14	〃	〃	山口車体工業	バスボデー	34	〃	新加	丹羽製作所	自動車部品
15	C	新加	早川工業	自動車部品	35	〃	新加	西条製織物	室内装飾織物
16	〃	〃	安田商店	カーテン・敷物	36	〃	森原	高千穂製作所	バス部品
17	〃	新加	岩戸自動車	バス車体修理	37	〃	新加	横山製作所	自動車部品
18	〃	新加	常盤工業	木工機械	38	〃	新加	渡辺プレス工業	自動車・航空機部品
19	〃	新加	岐阜精細	ペニニー	39	〃	〃	岐阜輸送機	各種建設機械
20	〃	森原	高安	合成繊維原料					

(昭和39.12.31・調 市勢要覧)

岐阜県の事業所製造品出荷額調

岐阜	大垣	各務原	中津川	羽高志	その他の都市
19.0	17.2	7.4	5.6	4.9	45.9

(昭和39年 総額 416,550百万円) %

数量 全国でつくられる紳士既製服調

大阪	岐阜	東京	岡山	名古屋	京都	その他
29.3	27.6	15.3	12.7	8.0	3.6	3.5

金額

大阪	東京	岐阜	名古屋	その他
39.8	22.1	18.1	8.6	11.4

(昭和38年全国既製服連合会調) %

問屋町既製服販売先調

東海	近畿	九州	関東	東北	北陸	北海道	その他
29.6	13.5	12.4	10.8	9.4	8.8	8.3	7.2

(昭和38年 総額8349,860百万円) %

岐阜県の豚飼育頭数調

各務原	大垣	可児	加茂	岐阜	その他の都市
16.5	12.7	12.5	7.7	6.8	43.8

(昭和39年 総頭数67,549頭) %

ことです。全国的にみますと、この土器は山地や台地に多くみられます。

いねづくりを
はじめたころ

弥生時代になりますと、いねづくりが行なわれます。この時代の土器も、多く発見されています。それも、平野部に多く発見されています。このことから各務原台地は、縄文・弥生・両時代とも人が住んでいたことになり、山地と平野部の境ということが言えそうです。

(二) 古墳時代のころ

古墳ができ
るまで

弥生時代に小さな村ができますが、いねをつくることができなくなるまで、村も大きくなってきます。そして、村の中に力をもった人があらわれてきます。

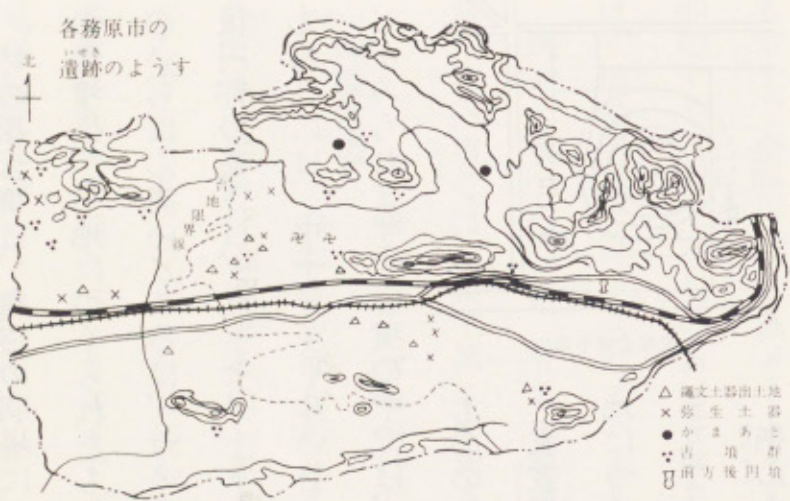
これらの人たちは、自分が死んだあと、りっぱなおはかにうめてもらいます。



せつにされていたものに、鏡があります。この鏡をもっていた人は、力のある人でした。

それでは、古墳は、どこにつくったのでしょうか。はじめのころは、山の上につくりました。それが、しだいにふもとへおりてきて、さいごには平地につ

このおはかを、古墳といます。古墳は、およそ三世紀ころからつくられるようになります。古墳の中には、自分がたいせつにしていたもの。自分が生きている間に、使ったもの。などを、いっしょにうめてもらいました。土器、首かざり、刀、そのほかいろいろなものがあります。とくに、たい



山わき古墳の土器

(3号ふん)



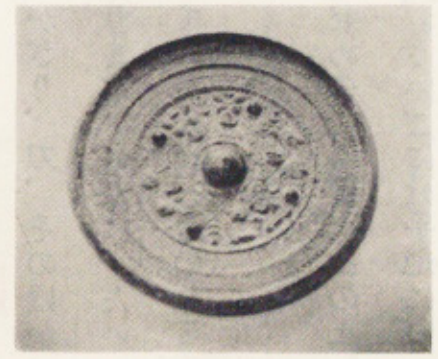
(5号ふん)

くられるようになりましした。つぎに、つくられた古墳の種類ですが、横穴古墳・方墳・前方後円墳、そのほかいろいろあります。

各務原市の古墳

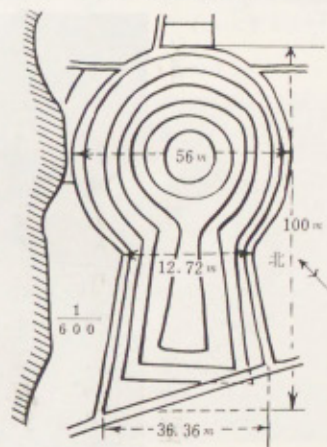
各務原市にある古墳は、どのへんにどれくらいあるのでしょうか。つぎのページにある「遺跡のようす」をみると、その位置がよくわかります。数としては、わかっているものだけで五―六十いじょう、みんな、数百にもなるのではないかと考えられます。その中には、前方後円墳、円墳もありますが、大部分は、横穴式の古墳です。横穴式の古墳とは、山すそに、長方形のかたちに石をくんで室をつくり、南側に入り口をつけたものです。つぎに、有名な古墳を、一、二しようかいしましょう。

古墳から出た鏡(うぬま)



坊の塚古墳は、鶉沼の羽場にあります。この古墳は、平地につくられたもので、前方部のいちばん高いところは、六・三六メートル、後円部の高さは、九・七メートルあります。まわりには、中十メートルいじょうの堀のあとがみられます。古墳の中では、古いものなかまにはいり、県下でも大きい

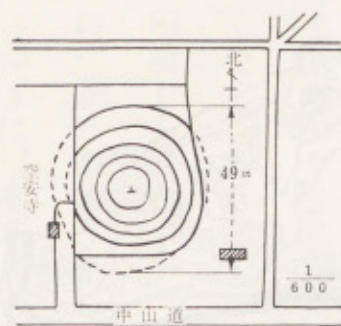
坊の塚古墳平面図



もの一つに数えられています。

衣裳塚古墳も、鶉沼の羽場にあります。これは、平地につくられた円墳です。高さは、七・八メートルあります。県下では、いちばん大きなものです。

柄山古墳は、山の上につくった前方後円墳として有



衣裳塚古墳平面図

名です。全長は、五五メートルあります。今も後円部のすそに、ふき石のあとを残しています。ここには、埴輪円筒もたてられています。

柄山古墳の西には、有名な琴墳古墳があります。

前方後円墳では、県下第二の大きさです。

けい頭はにわ (柄山)



山脇古墳

昭和四十一年のはじめごろ、三井山の南、山脇で住宅建設のため、の工事が行なわれました。この工事中に、古墳が多く発見されたのです。場所は山のすそ（高さ五十メートルくらい）で、日あたりのよいところ。そこで、一か月にわたり市の教育委員会が中心になり、県や名古屋大学の先生方のきょうりよくで、発掘が進められました。これは、そのときの見学記です。

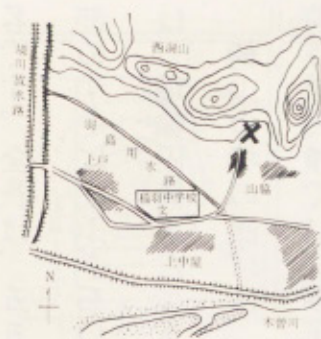
うです。



山脇古墳全景(航空写真)

た。あまり近づくと、土がくずれるので、そっと近
 よりました。上から見ると、写真に見られるような
 十二―三の須恵器すゑきという土器や、そのほか鉄のほこ、
 青い管玉くだたまなどの装飾品さうじくひんなどが見られました。
 ほかの古墳も見てまわりましたが、よくもこんな
 に、石をうまくつんで、つくったも
 のだと感心しました。見てきた古墳
 の大きさをまとめると、下の表のよ

古墳名 規模(m)	3号墳	4号墳	5号墳	6号墳
墳丘直径	10	11	11	12
現墳丘高	2.5	1.4	1.3	1
石室全長	7.3	7.6	6.1	6.2
石室巾	1.9	1.4	1.2	1.9
石室高	1.9	1.5	1.5	1.8



山脇付近の地図 X 発見場所

と教えてくれました。また、この付近には数多くの
 古墳があり、現在ここで四基よんきが発掘されようとして
 いること、右の方から三・四・五・六号古墳とよば
 れていることも教えていただきました。

わたしたちは、そっと五号古墳に近づいてみまし

わたしたちは、一学期の始業式に先生から古墳を発掘している話を聞き、さ
 っそく見学に出かけました。現地についてみると、もう右の方から二つは、み
 ごとにほられています。石室いしむらの中には、つばやくだ玉が、千二百年前の形をあ
 らわしています。うめられた人のほねは、なにもありません。

大ぜいの中学生が、おとなにまじって古墳のまわりの石についている土を、竹
 べらなどで取りのぞいています。大学生の人が来て、この石を葺石せきいしというのだ

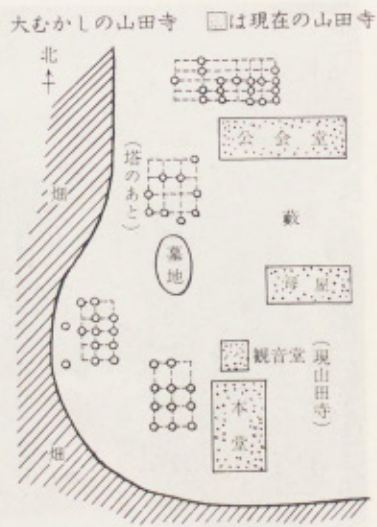
島の北の長さだけでも、やく八十メートルあります。このすばらしいかまえの山田寺も、今から四百年ほど前（安土・桃山時代）に織田信長が岐阜城を攻めた時、もててしまいました。今は、五重の塔の礎石と舍利容器に、そのころの文化をしのぶことができます。

山田寺

(三) 寺ができたはじめるころ

古墳がつくられた同じころ、寺がつくられます。山田寺、平蔵

寺は、とくに有名です。山田寺は蘇原の寺

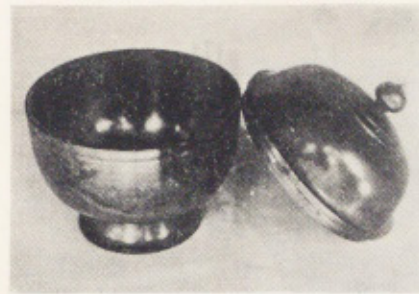


第5号古墳 石室の中



第6号古墳 全景

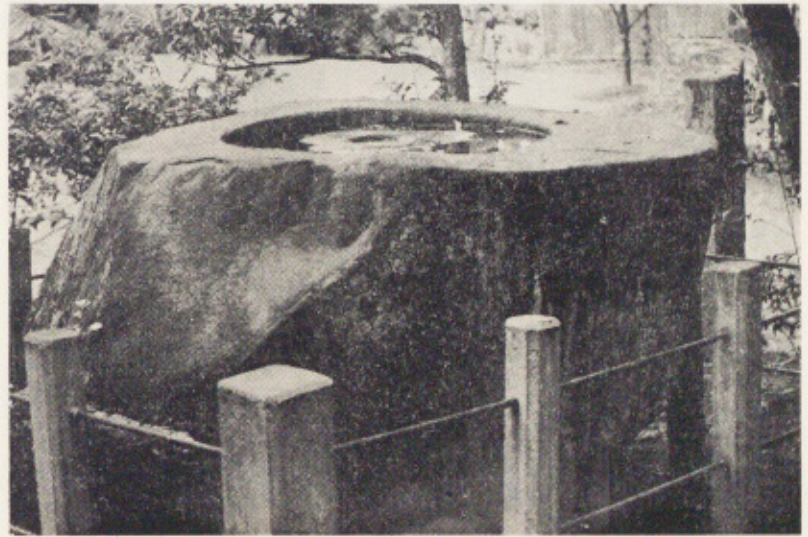




舍利器

舍利器は、インドのしゃかの骨つぼです。国の重要文化財になっています。これは、銅製のものです、そのころ、日本でつくられたものとは考えられません。中国かインドあたりでつくられたものと伝えられています。山田寺の近くの畑からは、大むかしの土器や、かわらのかけらが今でも出てきます。

山田寺の礎石



八、きょう土の開発

(一) 各務用水

用水ができる前の農業のしかた

那加西市場町を通る国道八三号線にそって流

西市場を流れる各務用水



れている用水を知っていますか。この用水が、関市小瀬から、岐阜市水海道までおよそ二六キロメートルにおよぶ各務用水なのです。

各務用水は、いつごろ、どのようにして作られたのでしょうか。用水ができる前のようす、作る時の苦心、できてからの農業のかわり方などについて調べてみましょう。

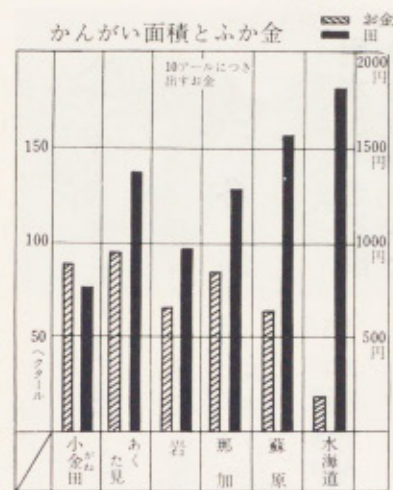
反対のおもな理由は

- ・ 工事費が各戸にわりあてられたため、そのふたんが多くふまんをもった。
- ・ (芥見村は、山ぎわで水路が通り、田が少ないということであつた)
- ・ 田畑をつぶしてまで作るのはこまる。

・ それだけお金をかけて、ほんとうに成功するか心ばいだ。

といったことだったようです。

その人たちは、反対のえんぜつ会を開いたり、そくりようのじやまをじたりしました。また工事を進めようと努力した岡田只治、横山忠三郎などが道を通ると悪口をいったり、おどしたりしました。



岡田ぎつねに だまされて

水はこんこん 人はわいわい

という、うたを蘇原や那加のおじいさんたちが知って
いるほどですから、その当時は、そうとう、さわがし
かったのでしょう。

やがて反対運動もおさまり、工事がはじまり、明治
二十三年用水全体が、だいたいできあがりました。

ところが、その年から洪水や、地しんがあいついでおこり、せつかく作った水
路がこわされてしまうということが、たびかさなりました。

人々は、もうだめだと気をおとしましたが、思いなおし、県に申し出て、お金
を出してもらい、やりなおしました。

用水取り入れ口 (関市小瀬)



芥見ふきんは、そばを長良川や、津保川が流れていますが、川がひくいために、かんたんに水が引けず、蘇原、那加も、境川の水だけではたりなく、日照りがつづく、すぐなくなってしまうというありさまでした。

五月洪出に 六月ひでり

ぬしは 夜水に身をやつす

といううたを、西市場町にすむおばさんが、おしえてくれました。夜どおし水番をする日がいく日もつづいたり、井戸からおけて水をくみ上げて田に水を入れるといった苦勞があつたようです。とくに明治十六年（一八八三）の日照りはひどく、苦勞のかいもなく、稲はほとんどかれてしまいま



水おけてくみあげる昔のようす

した。

用水路をつくる計画

こうした日照りをなくし、もつと広い田畑をたがやすためには、どうしても用水がなくてはと、ねがう人が多くなり、長良川から水をひいて用水路をつくるという計画ができました。

その計画をたて進めたおもな人に、岡田只治（山県郡）横山忠三郎（蘇原村）後藤小平治（武儀郡）といった人がいました。

明治二十一年（一八八八）武儀郡のなかの工事が完成し小屋名の取り入れ口から、長良川の水をとり入れ、白金村などは、り用するようになりました。ところが、その年、芥見、岩田、岩滝などから反対運動がおこり、それらの村では、工事にとりかかることができませんでした。

横山忠三郎の碑（蘇原）



各務用水路とかんがい面積

水路の長さ 26km
かんがい面積 440ヘクタール



各務用水ができるまで

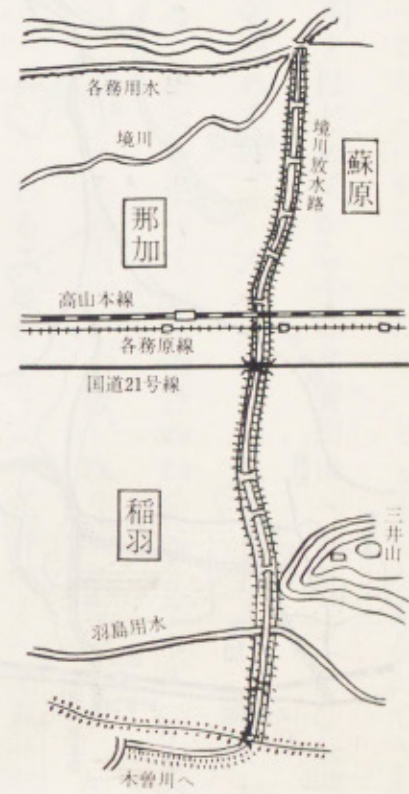
13	87年前	・用水を作ること計画、数百円を使ってそくりよう
16		・今までにないひでり、稲はほとんどかれた用水の必要なことがわかり、計画が進んだ
21		・武儀郡地内から工事ははじめた。成功し、上白金村は利用するようになった芥見村などが反対運動をおこした大宮村、西市場地内の工事ははじめた
23	77年前	・7月工事全体だいたいできた大雨のため一部分がこわれた
24		・遠尾大しんさいで所々がこわれた復旧工事にかかる
26		・かんばつ、植えつけができず水番をつづけた。長良川、大水で水路がうまった
27		・かんばつ、水あらいが続いた
29		・今までにない大洪水水路がまたうずまってしまった
30		・津保川が大水でかけといが流れた
34	66年前	・復旧工事がすみ、用水完成

(昭和42)

用水が 　　こうして明治三十四年（一九〇一）にやっと、水路が完全にできあがりました。工事をはじめてから十四年費用は一四三、二〇〇余円かかりました。ゆたかな水の流れをみて、人々はどんなによるこんだことでしょう。田も新しく作られ、今この水を使っている田は四四〇ヘクタールにもわたった。その後、取り入れ口が小瀬にかわる工事があり（一九四六～一九五一）水路もなおされましたが、まだまだおしたいところがたくさんあります。今も仕事の計画、水のり用のしかたなどについては、「各務原用水土地改良区」という組合が行なっています。

(二) 境川放水路

鷯沼町各務から、羽島市
小熊まで流れ、長良川とい
つしよになる境川は、むか
しから農業用水として役立



つてきました。ところが、水路がまがりくねり、ていぼうがひくいために、大
雨のたびにいていぼうがきれ、下流の地域は大きなひがいを受けました。

たとえば、明治二十九年（一八九六）の大洪水では、ていぼうがこわされた
ところ一〇六か所、橋七二がおち、水につかったところ一四〇九へクタールに
もおよびました。（各務郡内）大正六年（一九一七）にも、那加・南長森など

が大きなひがいを受けました。

そのたびになおされましたが、排水は悪く洪水もなくなりませんでした。

そこで、ひがいを受ける地域の人々は、なんとかこれをなくしたいと、岐東用
排水組合を作り、放水路を作る運動をつづけました。

そのかいあって、大正十四年（一九二五）一一〇万
円の予算で放水路を作ることにきまりました。

ところが、こんどは水路が通る地域の人々の反対
にあい、すぐ工事にはかかれませんでした。

田畑がへってしまふ。交通がふべんになる。東から
くる用水が放水路できられてしまふので、西がわは
水がなくなり田を畑にしなげなければならないなど、い

大正6年9月30日出水破壊工事場（長塚の西方503間）

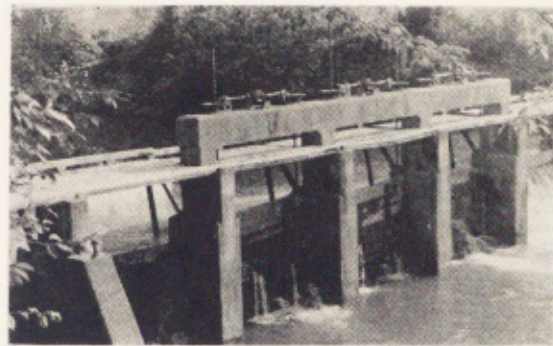




(三) 羽島用水

羽島地方は、平地で土地がよくこえているため、農作物を作るのに適した地域なのですが、むかしは水不足で毎年のようにひがいをうけていました。大正十三年（一九二四）などは、しゅうかく六割という田が三〇パーセント、四割という田が一四パーセントもあり、ぜんぜんとれないところもあったほどです。

人々は、用水を作ってほしいとなんどもねがいでました。そのねがいがやっとかない、工費



大島にある水門

ろいろ問題があったからです。

昭和三年（一九二八）にようやく工事にかかり、二年後の三月にできあがりました。蘇原大島から、那加・稲羽町を通り木曾川までの五〇六〇メートルの作られた川、それが境川放水路です。

今の那加中学校や那加第二小学校のある土地は、放水路をほった土で、うめたてたところです。

境川の水がふえた時は、大島にある水門を開いて放水路に流すので、水害になやまされることはなくなりました。けれども、那加や稲羽の人たちにとっては、前より悪くなったこともあります。どんなことか調べてみましょう。

七〇万円で用水を作ることができました。大正十五年のことです。

昭和四年に工事がはじまり、上中屋（そのころ羽島郡）から二〇四五メートルにおよぶ水路が、三年後の三月完成しました。

それから二十七年近く、この水が米作りに役立ってきましたが、取り入れ口ふきんの川ぞいがひくくなり流れもかわったため、たくさんのお水をとり入れることがこんなになつてきました。そこで取り入れ口を上流に作り、かんがい面積もふやそうという計画ができて、国の費用で行なうことになりました。

この仕事は、羽島用水だけでなく、愛知県の宮田・新木津用水をふくむ濃尾

羽島用水取入口（鶴沼南町）



用水事業として進められています。

犬山城の下にあるダムは、昭和三十七年にできありましたが三つの用水の取り入れ口として、たいせつな役目を果たしています。

ます。

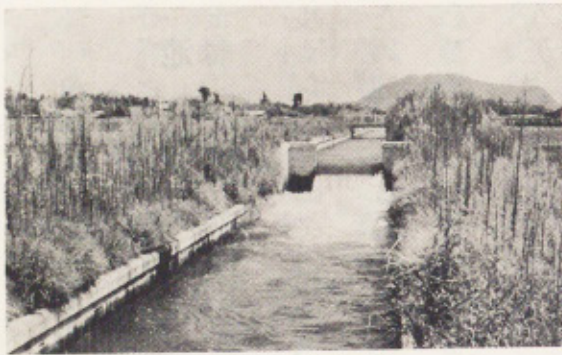
羽島用水ができたため、各務原市

南部の畑地もかんがいができるようになり、作物の生産高もふえてきました。

人々の努力で、水の心配はなくなりましたが、まだ耕地整理とか農作物の作り方などの問題が残っています。わたしたちの地域ではどうでしょう。調べてみましょう。

羽島用水かんがい面積

郡市名	田	畑
岐阜市	33.2ha	
各務原市	196.1	80ha
羽島郡	700.5	
羽島市	822.9	



ゆたかな水が流れる水路

(四) た め 池

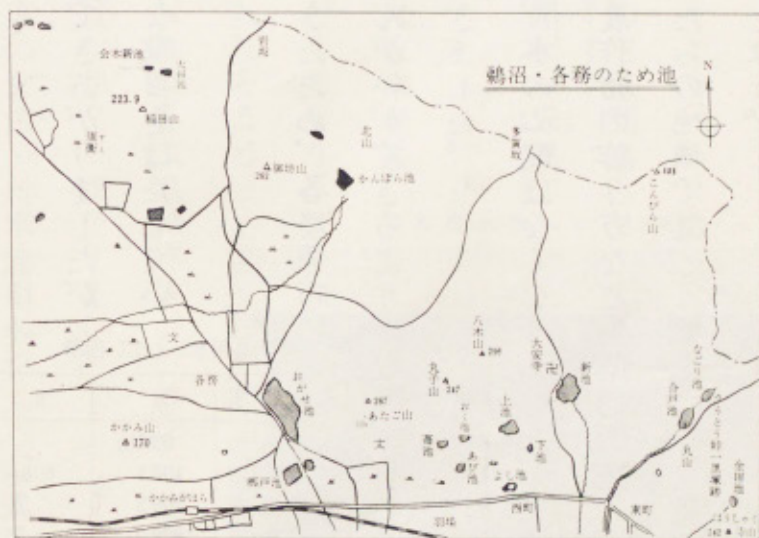
池
はじめの

鶴沼・各務の北の方には、

八木山をはじめ三百メー

ルくらいの山々の間に、大小たくさん
のため池があるのに気がつきませう。どう
してこんなにあんなにたくさんあるの
でしよ

うか。
これは、みな農業用水池で、山の谷や
ふもとにため池をつくり、自然の雨や
わ
き水をため、水のほしい時に使うのです。



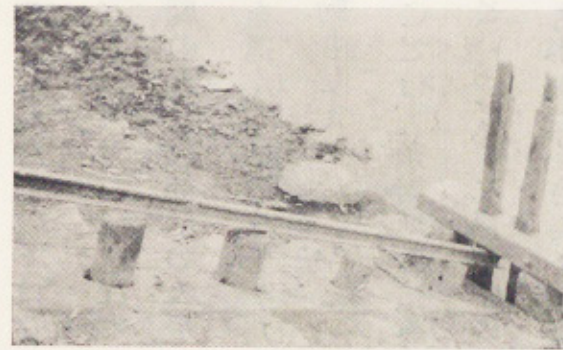
どの池も米づくりがはじまって、ある時代に計画的につくられたものではな
く、その地区の人が、ひつようにせまられて、近所の人ときょうりよくしてつ
くったものばかりです。明治・大正ころまで、大雨や台風のおとは部落の人が
みんなで、池さらえをしたり、はがねうちといって赤土を運んで池の岸をかた
める仕事をしました。そのために県から費用をもらう運動もしました。

各務原市の東部の人々が、むかし農業用水に苦しんだことは、須衛地区にみ
られる用水規約がしよこです。須衛地区はむかし天領といつて、江戸幕府の
土地でした。天領は全国にあんなにたくさんありましたが、どこも水があんな
にあつて、不作といふことのない所ばかりでしたから、須衛はたいへんよい村だ
ったにちがいない。しかし、だんだん水田がふえて水が不足し、大正六年に規
約がつくられました。その規約には

水田を通常田と三日田にわけて、通常田は、いつでも水がひける田で、新しくつくった田は、一反（一〇アール）について五〇円くらいの金を、村へおさめしました。きまった金が出せない田は、三日田とよびました。この田は、夏中（夏至から二百十日まで）に三日いじょう続いて雨が降った時に、三日間だけしか水を田へひくことができないのです。

家族が一年食べる米がなくても、村へおさめる金が必要ならば、自分の土地に米がつかれないのです。農民としてこれほど苦しいきまりはありません。しかし、こんな規約をつくって、田をつくらせないようにしても、まだ水が足りないことがありました。

池の水の取り口



水がなければ米はできないのです。どうにもならないので、土地の人は、神さまに雨が降るようにいのりしました。

村中で金をだしあつて、遠い所の神さまへ、代表の者がおまいりに行ったこともあります。おがせ池の龍神にいのって、天の山へ暗い夜、かねや太こをうちならしながら、手に手にたいまつを持って、登ったこともあります。

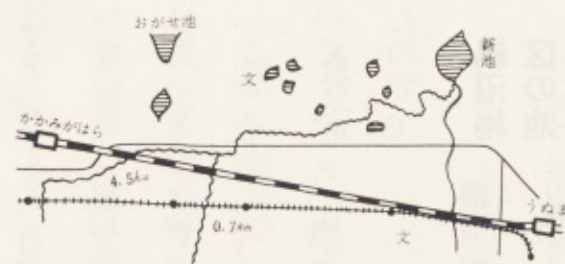
このころでは、米がとれなければ、食べられないのですから、池をつくることは、一生けんめいだったのです。

新池



鶉沼地区は、新池をはじめとして、なごり池・合子池・上池・下池・よし池など、

区 の 池



くさなぎ隊の開いた用水路（推定）

たぐさんのため池がありますが、小さくて水量も少なく、いつごろつくられたかもわかりません。しかし新池は、各務原の開発のもとになる、つぎのような若心がかくされています。

新池は、一八七〇年頃、名古屋藩の家老であった田宮如雲が計画をたてました。如雲は江戸幕府の終わりの時、多くの武士が職をうしない、生活にこまることを心配して、「草薙隊」という隊員三百名ばかりをもつ農民隊をつくり、各務原を開いて水田をつくる計画をたてました。

そしてそれには水がひつようだというので、太田宿の人福田太郎八にたのんで新池をつくり、一方隊員は、新池から西町のけいせんじを通って、羽場裏から

内野へ出て、各務原までの水路をつくつ

て、水を通しましたが、水は各務野まで

流すことができず、田宮如雲は病気で死

んだので、草薙隊はかいさんしてしま

ました。けれども新池は、そのちもだ

んだん改良されて、今日まで多くの人のくらしをささえています。

鵜沼の内野の南に、田宮如雲先生のひが残っています。

各務地 各務地区の内にも、いくつかのため池があります。おがせ池をはじめ

区の池 めとして、郷戸池・寒洞池・須衛の上池・中池・下池などです。

おがせ池のほかは、みな近所の池の水を利用する人たちが、そうだんしてつくったものだけに、池も小さくその水を利用してはいる面積も広くありません。

田宮如雲のきねんひ



おがせ池は各務原市内でも一ばん大きく、南北六〇〇メートル・東西二一五メートル・面積は約八・六八ヘクタールもあります。夏中たくさんすべらんの水蓮が咲いて、道行く人をたのしませています。

むかし各務野たけ一帯は、東濃とうのうからでた土岐氏とぎによっておさめられていました。

土岐氏はだんだん勢力せりよくをえて西にのびて、六代の土岐頼益とぎより（約五五〇年前）の時、美濃みののくにの守護職しゆごしやくになりました。そのころ頼益は、天の山にとりでをつくっていましたが、そのとりでを守るためと、おさめている人々のりえきのために、つくったのだらうといわれています。蘇原も土岐氏におさめられていたのですから、この池の水は蘇原の方まで利用できるように計画されています。



おがせ池と用水路

むかしこのおがせの池は、龍宮りゆうぐうに通じていて、何百年も年とった大蛇だいじやがすんでいて、時おり美人びじんになったり、山うばになったりして、里人をなやませたが尾張国本宮山おわりのくにほんみやまで福富新蔵ふくとみしんぞうの矢にうたれ、またおがせの池にもどって前の罪をわび、人の苦しみをすくうとちかつかつたという伝説が残っています。今その八大龍王神はちたいたいりゅうおうじんがまつてあります。

このほか寒洞の池が農耕用のほかに、消火用や生活上に利用されるように計画され、村中へ水が流れるようになっていきます。洞区ほらくは他の部落ほらたくと少しはなれていますので、火災の時早く助けに来てもらえないと考えてのことでしょう。むかしの人の生活のくふうが、うかがわれます。

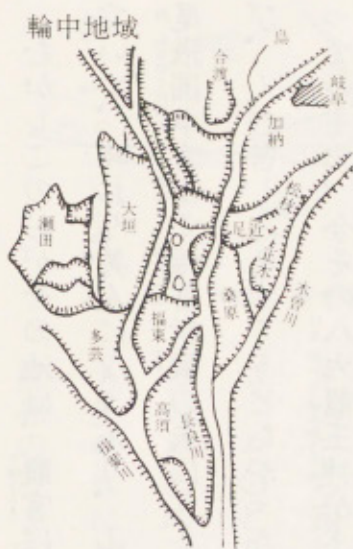
おがせ池



(五) ひらかれていく輪中地帯

輪中の生活 木曾・長良・揖斐の三つの川が集まっている下流の地方は、ていばうにかこまれたひくい土地に、家や田畑があります。

このような地域を、輪中とよんでいます。川が近くにあり土地がひくいために、むかしからこう水になやまされてきました。そのため人々は、いろいろ、くらしのくふうをしなければなりません。でした。



多くの家は、ていぼうのそばにたち、もり土や石がきで土台を高くしています。また、もっと高い石がきの上に、水屋と

いうものをたて、食料やたいせつなものを入れ、ひなんする場所にしていました。

ていぼうの上から見ると、みわたすかぎり水田がつづいています。輪中地帯は、むかしから米作りがさかんなところでした。

水屋 (高須輪中)



薩摩藩の工事 二百年くらい前、毎年こう水になやまされてきた美濃の人々は、なんどかこれをなくしたいと、なんども幕府に工事のねがいを出しました。

そのねがいがとりあげられて、一七五三年木曾・長良・揖斐の三つの川を、

それぞれ分けて、海へ流れるようにする工事をする事になりました。

幕府はその工事の手つだいを、九州の南のはしにある薩摩藩にいいつけたのです。平田鞆負つらねという人が、六百人のけらいをつれてはるばるやって来ました。

お手つだいといっても、工事のお金は薩摩藩が

ほとんど出さなくてはならず、石・木材などの用意もたいへんなことでした。工事のしつぱいのために、大ぜいの人々がせつぶくするといったこともあり苦勞のれんぞくでしたが、一年三か月目に工事が終わりました。

油島の治水神社は、工事で死んだ人たちをまつり、その仕事をたたえて作られたものです。

牧田川のていぼう工事 (41.9 養老町)



また、つつみにうえられた千本近い松は、千本松原として今もそのすがたをのこしています。

水害と多芸輪

中の村づくり

昭和三十四年八月、集中ごう雨で大水が出て、牧田川のていぼうがきれました。そのため多芸輪中は水につきり、みのりを前にした稲はぜんめつし、約二千二百戸がこわれたり、しん水したりしました。そのうえに伊勢湾台風(九月)におそわれ、ふたび大きなひがいを受けてました。

人々はとうにくれてしまいました。けれども、このままではいけないなんとかしなくてはといろいろうだんし、新しい村づくりをすることにしました。大きな仕事は、耕地整理と沼地のうめたてでした。

職業

(養老町)			
農	商	公	務
52%		自由業	15%
		20%	その他
			工業
(5723戸)			

土地利用

田	山	林	池	その他
40.3%	24%			28.3%
原野				

耕地整理のあとは、十アールごとの田がならば、農道も水路もまっすぐになりました。今までは稲しかできなかつた田に、うら作ができるようにもなりました。はい水が完全にできるようになったからです。



水害のあとできた鉄筋住宅

つぎは、仕事をのうりつ的にするための機械化です。動力だつこく機や動力ことうん機などがたくさんふえました。

また、米作りだけではいけないということではじめたことに養いがあります。新しい方法をとり入れ共同でかっています。こじんて五千羽ぐらいいかっている家もあります。しょうらいは、三十万羽までふやす計画です。

九 中 山 道

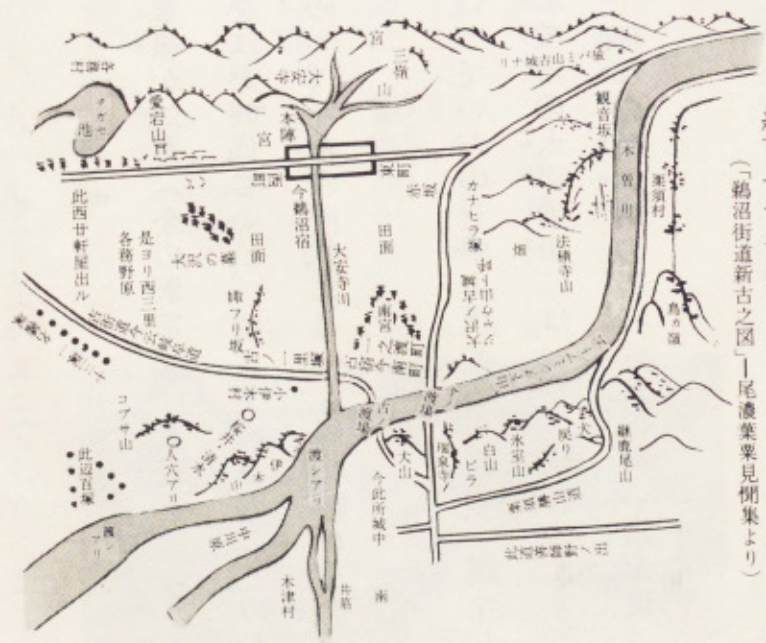
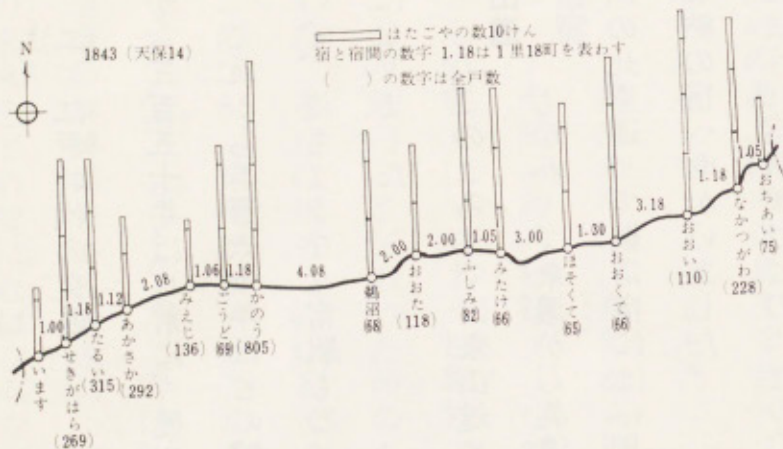
(一) 大むかしの交通

町の大 わたしたちの町、各務原市のほぼ中おう
むかし を、東から西へ通っている中山道(国道
二一号线)について、かんがえてみましょう。

まず大むかしから、このへんに人が住んでいたことは、岐阜市岩田に日子坐王のおほかがありますし琴塚には、五十鈴琴姫のおほかがあるとつたえられていることでもわかります。



県内・中山道の宿（岐阜県の歴史より）



約百七十年前の道
（「鶴沼街道新古之図」尾濃業見棚集より）

今から千年以上も前に、このへんに道があったこともわかっています。そのころは、岐阜市の古津から長良川をこえて、岩田から蘇原の古市場にはいります。鶴沼の二十軒から小伊木・古市場を通り、南町の城山の下で木曾川をこえます。愛知県犬山の善師野を通って、可児駅の方へ進みました。

鶴沼の市
と地名

三世紀ころ、鶴沼に「駅家郷」という駅があつて、七〇戸くらい
の町がありました。鶴沼宿の本陣桜井さんの家も駅家郷にあつて
近くに美しい清水もわいて、旅人が休むのによい所で、古市場や南町はその地
名のとおり、市がたつてにぎやかな所でした。八世紀ころの古い歌や本には、
鶴沼のことを宇留摩市・売間・鶴留間などと書かれています。これは物を売つ
たり買ったたりする市場というわけもふくまれているわけです。

(二) 江戸時代の交通

今から三百五十年ほど前に、徳川家康が江戸（今の東京）に幕府をひらきました。これから二百六十年ほどの間を江戸時代といい、殿さまの行列などのかんけいで、道もよくなり宿駅もとのつて、前の時代よりらくに、旅ができるようになりました。

中山道

このころまでは東山道といっていたのを中山道とあらため、道すじもかわって東濃から美濃加茂市の太田の宿にはいり、現在のよう木曾川の北を通って鵜沼宿にはいり、那加の新加納の西坂で北の細い道を通って、加納の宿へ向かいました。

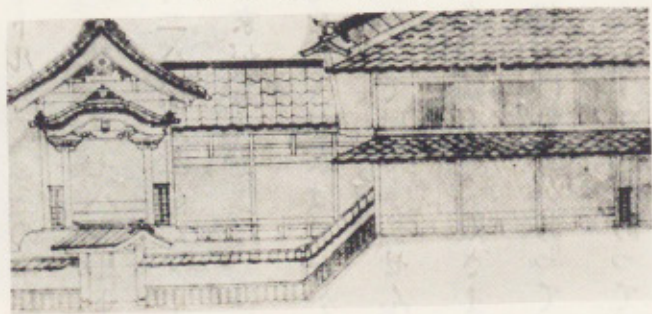
このように宿駅がととのつたので、前のように食物・すいじ道具・時には野宿のための雨よけの道具まで持って、旅をする不便がなくなって、旅をする人がだんだん多くなってきました。

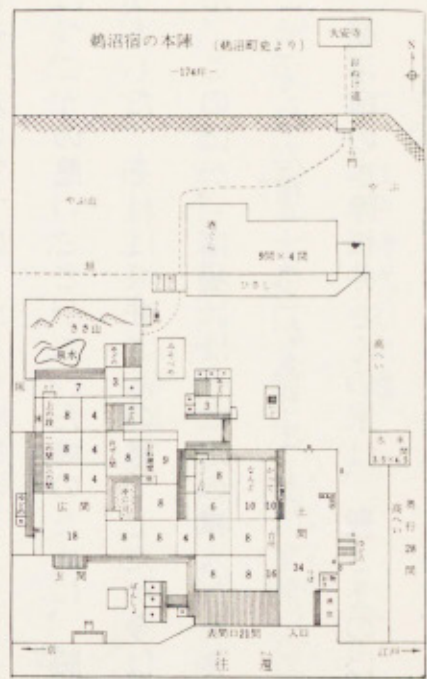
鵜沼宿

鵜沼の宿は、東町から西町へかけて七丁三十間（約八一〇メートル）の間で、本陣の桜井さんの家では、大名や公家がとまりました。本陣につごうの悪いことがあった時のために、脇本陣がありました。それは坂井さんの家でしたが今はありません。このほか、宿場には一ばんの旅人がとまる「はたご」「きちん宿」などがありました。

鵜沼宿の本陣桜井さんの家は、殿さまのほかにはたごさんの家来をとめなければならぬので、大へん大きなかまえてした。まず屋

本陣の玄関の図



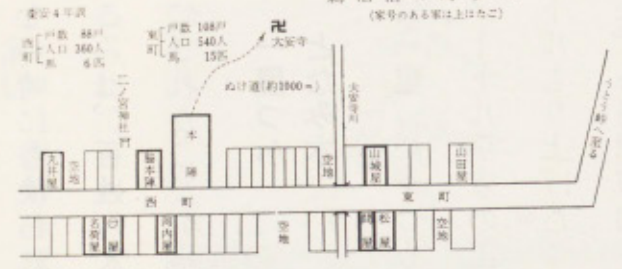


本陣の間取図

敷が一七四〇坪（約五七五〇平方メートル）で、その中に表間口二一間（三七八メートル）奥行二八間（五〇四メートル）の家がありました。しかしこんな大きな家は、むかしづくり方ではできません

ので、いくむねかをつきあわせて、ところどころに中庭がありました。殿さまがおとまりになると、表門には宿札や高張りをだし、門の横には番所があつて、夜どおし番をしました。このほか 本陣の屋敷内には、かならず小川があつて、年中水が流れていました。これは消火のためで、桜井さんの家には、今もこの

鶴沼宿の町なみ



小川が残っています。そのほか大きな酒倉や米倉・精米所まで用意されてありました。

本陣の表門は、宿場七丁三十間の外からは、たいてい見通せないように、道がゆがめてあつて、門前の道はばは四五メートルくらいで、ほかの所よりせまくしてありました。これは大ぜいの人が、一度にせめてこれないように考えたものと思われます。本陣はそれでもまだ心配だといふので、裏門の近くに大きなお寺やお宮をもつてい

ました。鶴沼宿ではそれが大安寺です。きけんの時に殿さまがひなんするところになっていました。

大安寺



脇本陣は本陣よりずっと小さく、屋敷も七五〇坪（二四七五平方メートル）でした。本陣のつごうの悪い時のほか家来がたくさんで、本陣におさまりきらない時にも使われましたので、小さいながらも表門も玄関げんかんもありました。このころは、百姓町人は門や玄関はつくれなかったころですから、たいへんだいじにされたことがわかります。

一里づか このころかい道には、旅人の参考にした

となみ木 り、かご代の計算のために、道の両がわに一里づかをつくりました。これは道の両がわに一〇メートル平方の正方形をつくり、その上に土を四メートルもり上げたつかで、上に松や、えの木を植えました。各務原市内では、鶴沼のうとう峠とうげと、各務原の東

うとう峠の一里づか



昭和27年頃の中山道の松（長森・高田）

のはしの高山線のふみきりの少し東と、六軒ろくせんと新加納しんかのあいあいの宿梅村屋のすぐ西にありました。

また中山道の両がわには、旅人が夏は涼しい木かげをたのしみ、冬は雪よけのためにと松の木が植えられました。江戸から岐阜まで百里（四百キロメートル）の道を十日も歩きつづけるのです。松なみ木の色や、かわった枝ぶりなどにこの長い旅をなぐさ

められていたのです。

あい 鶴沼の宿を西へでると、広い広い各務野の中へ道がはいります。道の**の宿** 両がわはすすきと小松原です。六軒から西那加へかけては、一軒もな

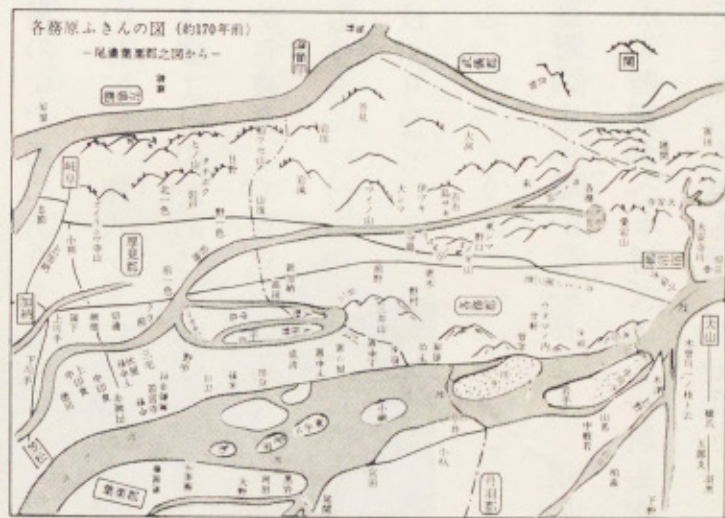
いさびしい所だったので、いろいろの悪者がたという話も残っています。

鶉沼宿の次は加納宿ですが、その間は四里十丁（約一七キロメートル）で、人足がつかれるので、那加の新加納にあいの宿がありました。

あいの宿というのは、正しい宿場ではありません。次の宿までの間に休けいされる所で、梅村屋が殿さまの休けい所になったわけです。かくれ場所は少林寺でした。

問屋
宿場にはまた問屋というのがありました。人足や馬を用意している

ところです。時代によってちがいますが、鶉沼宿では、人足二十五人・馬二十



五匹で、少ない時は人足六人・馬六匹という時もありました。しかしこの人足や馬は役人や大名・公家しか使えませんでした。

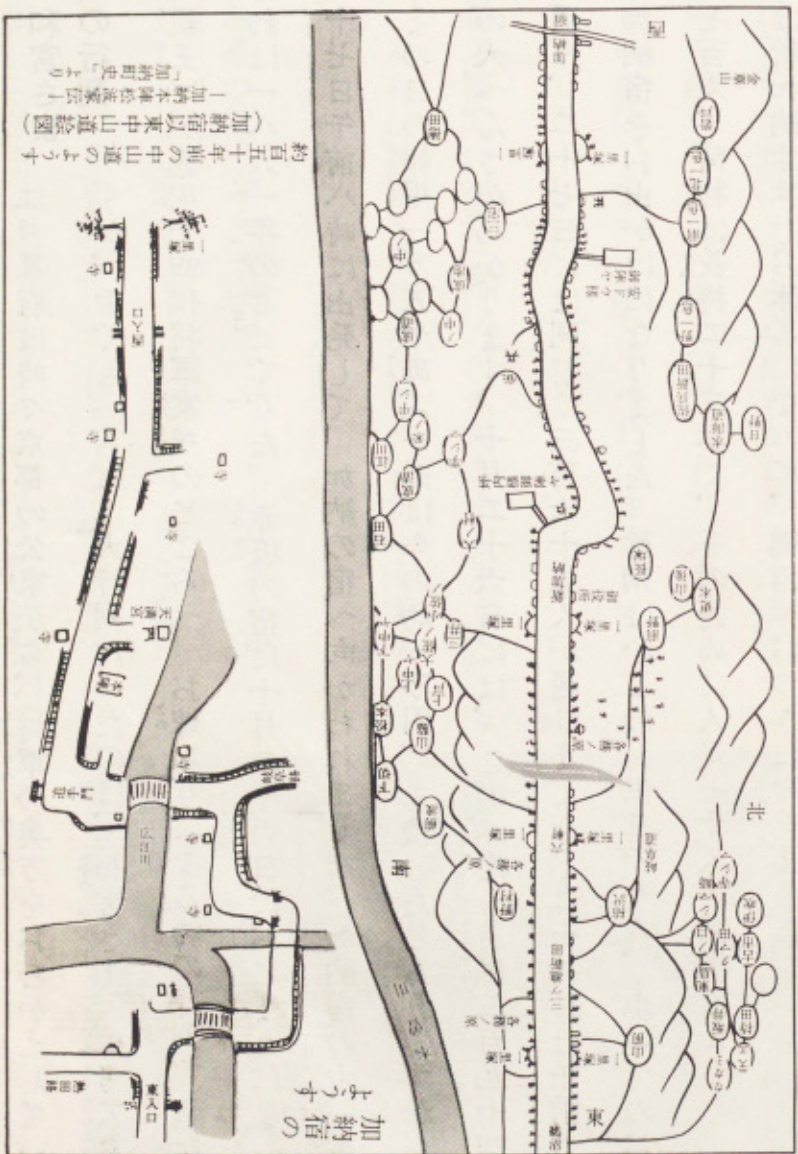
中山道は東海道の裏かい道として使われていました。東海道には川が多く、川止めなどで思わぬ旅の日数がふえましたが、中山道はそれがないので、かなり利用されていました。それでも江戸から早かごで三―四日はかかりました。ある宿駅の記ろくに、一年間に旅人三万人・馬一万八千匹も通ったことがしるされていますから、鶉沼宿も新加納宿もかなりにぎやかだったわけです。

助郷
大々名やとくべつの行列の時は、宿場の人足や馬だけではたりませんので、近くの村や国から、りん時に人足や馬を出しました。これを助郷といつて、税金やいろいろの義務はめんぜられておりました。鶉沼宿の助郷は須衛・各務・持田・坂井・東島・野口・熊田・飛鳥・古市場・伊吹・島崎・

柿沢・前渡・富岡・下野・上野・木津・深
 萱・迫間の十九の村でしたが、助郷は百姓
 としてはなかなかめいわくなため、ときど
 きもんだいをおこしました。

更木の徳山という殿さまの政治が悪いと
 いて、百姓がぼうどうをおこしたことが

あります。その時なかまのものが、蘇原の大島におるといので、役人が大ぜ
 い大島へきました。おどろいた島崎・野口・態田の村役人が、遠くのしんせき
 へかくれてしまい、助郷の役目ができなくなって、宿場役人も旅人もこまった
 という話も残っています。このころの百姓は、ひどい生活をいられていまし
 た。その上助郷にでるのは、仕事にさしつかえて大へんだったのです。



約百五十年前の中山道のより
 (加納宿以東中山道図)
 一 加納本陣松葉家図
 「加納町史」より

和宮さま

の行列

江戸幕府は時々京都の公家から、將軍の奥方をおむかえして、
すが、中でもいちばん大行列だったのは、和宮さま（仁考天皇の
内親王）が徳川十四代將軍家茂のところへ、お嫁入りになる時の行列でした。
それは一八六一年のことでした。赤坂の宿に十月二十六日におとまりになって、
二十七日午前八時に出発して、加納の宿へ向かわれました。加納宿の古い書物
にその日の雑用一万五千兩（一兩は今の約一万円）を使つたとありますから、
その大へんさがわかります。十月二十六日には、このへんを前供三百九十四人
が通り、二十七日には同じく三百六十五人が通りました。二十八日は午前六時
に加納宿をお出かけになりました。行列はかごのお供五十九人、歩いてのお供
千七百人、荷物は長持二十三本で、そのために人足七千人がお供しました。行
列は新加納で少しお休みになって、鶉沼へおつきになりました。

行列の当日は、中山道の両がわの見えると
ころで働いてはいけない。目ざわりになるよ
うなものは、すべて取りすてねばならないと
決められていました。

鶉沼宿では当日二千人の人足を出しました
が、それは美濃・飛驒・伊勢の三国から集め
られました。

お茶つぼ

道中

年々宿場をこまらせる仕事の中
に、お茶つぼ道中というのがあ
りました。京都の宇治のお茶屋から水戸家や
將軍にお茶を三つぼずつけん上するための行列でした。

加納宿（広重のえ）





お茶つぼ (大安寺)

決められた人足は、百二十人・馬二十三匹ですが、それぞれの宿からサービスの人足や馬をだしましたから、とても大行列でした。

このころの子どもの歌に「づいづいずつころばし
ごまみそずい、茶つぼにおわれて トッピンシャン ぬけたらんどんどこしよ」
というのがあります。これはお茶つぼ道中がやかましくて、やっかいたったことをうたったのです。

(三) 明治の交通

百年ほど前に江戸幕府がほろびて、明治の新政が始まりました。日本は政治がすっかりかわり、西洋文明がどんどん入り入れられました。国内のどこにも

汽車や電車が走るようになりました。かごではひとりを運ぶのにふたりかかりですが、人力車はひとりで一―二人のせてひくのですから大へんべりでした。つぎに馬車ができました。馬の背にのせると一―二〇キログラムくらいしか運べなかったのが、一どに五―六百キログラムも運べるようになったのです。

宿場はだんだんおとろえていきました。鶺沼宿にあった本陣・脇本陣・上はたご・中はたご・きちん宿も転職しなければならなくなりました。

そののち、世の中の発達とともに交通もうつりかわってきました。中山道も工業都市とかわりつつある各務原市の、大動脈として発てんしてきました。国道二一号线ともなつて、各務原市とともに発てんしていくでしょう。



馬車

十、すみよい各務原市へ

わたしたち　じろうくんの学級では、これかのねがい　らの各務原市について、わたしたちのねがいを話し合いました。

「学校は、みんなてつきんコンクリートにした
い。」

「国道をよこぎるところには、小中学生のための
の渡道橋がほしい。」

「市のあちらこちらに児童公園や水ぞくかん・
動物園などがほしいです。」

国道 21 号 線 (市役所前)



みんなのねがいは、いくつもつづきます。

おとうさんたち　おとうさんやおかあさんたちも、各務原市をすみよい市にする
ちのねがい　るために、いろいろなねがいをもっています。

「市の図書館や、文化センターがほしいね。」

「ごみをすてるばしょをよく考えて、カやハエのいない市にしたい。」

「東西の道はよいけれど、どうも南北に地区を結ぶ道がまがりくねっているし
細くてあぶないね。」

「まだ、道が大きいくぼんでいてあぶないところがあるね。」

「市の人たちが、たずねやすい、新しい市役所になるといいね。」

「わるいことをする人がいない町にしたいね。」

おとなの人たちも、それぞれに、すみよい市にするためのねがいを、たくさ

んもっています。

すみよ

市の人のねがいにくたえるために、

い市へ

市長さんや、市議会議員さんたちが

いろいろとそうだんを進めています。

市役所の中では、都市計画課が中心になって

二十年後の各務原市を考えて計画をたてていま

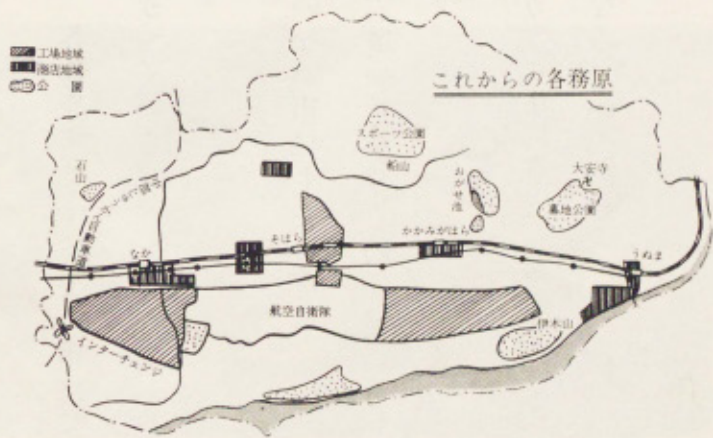
す。

○ 人口……いまの人口は、やく六万六千人で

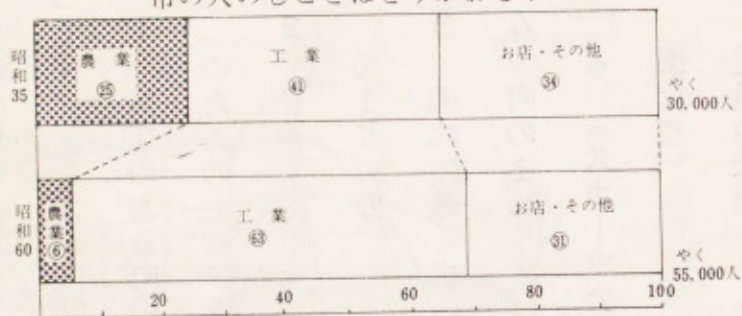
すが、やく十万人になります。

○ 産業……農家のこう地は、いまのやく四わ

り（一〇〇〇〇ヘクタール）くらいになり、やさ



市の人のしごとはどうかわるか



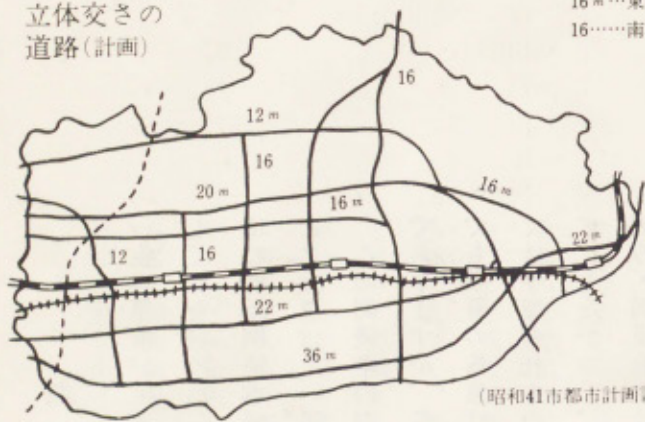
(昭41・市都市計画書より)

いつくり・かちくをさかんにする。

各務原の工業はひこうき・バスなどの機械と、せ
んい工業が中心になってさかんになりました。こ
れからもいつそう工業をさかんにするためにひこ
う場の西（やく二〇〇ヘクタール）、東（やく三
〇〇ヘクタール）の土地に工場をたくさんつくる
ようにしたいものです。

○ 土地利用の計画……各務原市は、岐阜市（や
く十五分）や名古屋（やく四十分）へつうきん
するじゆうたくの町であるといっしょに、工業の
町としてはってんするでしょう。こうしたことが

立体交さの
道路(計画)



(昭和41市都市計画書)

の自動車の交通量は、五―六千台ですが、昭和六十年には四万二千台にもなる見通しです。

それで、中部横断自動車道の計画もふくめて、中三十六メートルの道路をはじめとして十六本の道の計画がたてられています。歩道と車道をわけた安全な道、みどりの木がならんだ美しい道をつくるわけです。

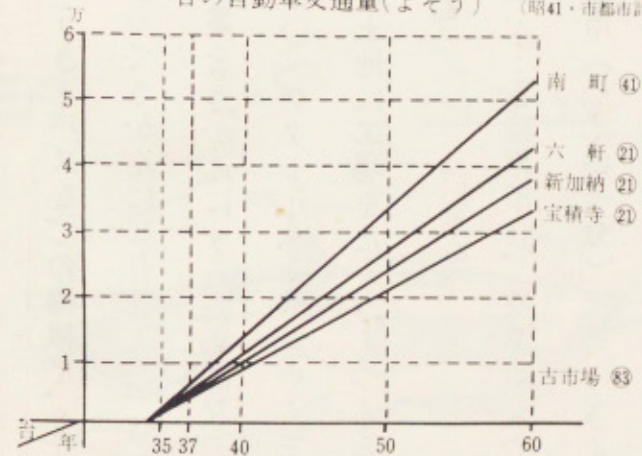
これから先の各務原市をどんな市にしたらいいか、これからの各務原市のゆめを、みんなで話し合ってみましょう。

ら土地の使いかたを、考えることがたいせつです。

- 1 お店のある町の近くに、市のみんなのためのしせつをまとめる。
- 2 じゅうたく地と、工場の土地を分けてまとめる。
- 3 南北に通る広い道をつくる。
- 4 町のまわりには、大小の公園をつくる。(スポーツ公園・児童公園・小公園など)

○ 道路の計画……いまの国道二十一号線

一日の自動車交通量(よそう) (昭41・市都市計画書より)



あ と が き

各務原市が生まれて四年目、社会科学学習においては、郷土の正しい理解を通して社会科のねらいを満たそうとする研究実践が積み重ねられてきました。各地の郷土副読本編集の展開と共に、本市においてもここに発刊の運びに至ったことは喜ばしい限りであります。

この副読本の内容は、小学校三・四学年の指導内容に対応して編集したものでありますが、教室の指導では、全内容を羅列的に読むのではなくて、あくまでも学習の基盤は具体的な校下のくらしにおくべきであります。他地区については学習の仕方のモデル、あるいは比較教材として用いられるべきものであります。したがって、この副読本の内容構成は「各務原市史・地理」などという系統的・網羅的ではありません。例えば、稲羽地区については、「町の人のくらしのようす」では稲羽東小、「くらしのうつりかわり」では稲羽西小を中心として記述してあります。稲羽地区のくらし全体のまとめを書くという

編集にはなっていないのです。

しかし、この副読本は授業に直接使用されるばかりでなく、各務原市民として郷土を理解するための参考図書でもあります。累年の社会科指導と、本年度に入ってから現地調査・資料蒐集・原稿執筆・編集会等多忙な校務のいとまをぬって行ない、一応の成果をまとめたのでありますが、なお不十分な点の多いことを残念に思います。本書の内容は郷土各務原の一断面にすぎないという見地に立って、指導される先生・子どもと学習される父母の方々と、その不備を補い、将来よりよい郷土副読本第二集が生まれるように、ご叱声とご指導をお願いする次第です。

終わりに、本書の編集に『鶉沼町史』より重要な資料と共に、現地指導をいただいた教育委員長栗木謙二先生に敬意を表わし、更に多大の便宜を与えられた各務原市当局・航空自衛隊・各官公署・各事業会社をはじめ関係各位に厚くお礼を申し上げます。

構成・編集

教 育 長
学 校 教 育 課 長
指 導 主 事

川 島 好 雄
大 矢 正
鈴 木 安 行

編集・執筆

那加第一小教諭

清 水 年 子
立 川 清 水 美
西 脇 富 子
林 智 慧 実 郎

那加第二小教諭

長 瀬 春 太 郎

輪羽西小教諭

後 藤 田 宏 一 男 信 恵 子 進 信

輪羽東小教諭

牧 小 早 柳 横 大 島 美

鷗沼第一小教諭

川 原 山 島

蘇原小教諭

大 島 美

昭和四十二年三月一日印刷
昭和四十二年三月一日発行

かかみがはら (代贈字)

編集兼発行者

各務原市教育長

川 島 好 雄

印刷者

岐阜市七軒町一五

西濃印刷株式会社

代表者 沢島 武

発行所

各務原市那加桜町

各務原市教育委員会

各務原市図書館



110525433

